

2022 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	歯科医院院長 (1998. 4. 1～)	2020. 2. 1～ 2026. 7. 14	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
非常勤	介護老人福祉施設事務長 (2003. 9. 1～)	同 上	同 上
(備考)			

様式第 2 号の 2－②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 1. 教員授業担当科目 新年度のシラバスデータに各授業担当教員が直接アクセスし、新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項確認および加筆・訂正を直接行う。 2. 外来講師担当科目 郵送またはメールによって新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項内容の確認を行う。 3. 学内にて最終確認を行う。 4. 新年度開始時期に、印刷した新年度のシラバスを学生に配布する。 また、学校ホームページにて公開を行う。	
授業計画書の公表方法	www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の学習成果の評価及び単位の認定は次の学則第 23 条に基づき、筆記試験、実技試験、レポートを主軸に置き科目ごとに客観的な基準を設け判定している。 1. 授業科目の評価は、試験・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。 2. 授業科目については、随時試験を行い履修の認定を行う。 3. 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者又は不合格の者については、追試験又は再試験及び再実習を行うことができる。 4. 出席時間数が授業時間数の 3 分の 2 に達しない者は、科目についての評価を受ける資格を失う。ただし、臨床実習については、規定時間の履修を原則とする。 5. 臨床実習の評価は、実習内容・実習記録等によって行う。 6. 臨床実習の履修の認定は、実習終了後に行う。 評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。合格した者には単位の認定を行う。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。

さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にG P A (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のG P (Grade Point) を付与し、次のとおり平均点 (G P A) を算出している。

1. G P A成績評価について

標語	G P	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合 格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70点未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. G P Aの算出方法

$$\frac{〔秀〕修得単位数 \times 4 + 〔優〕修得単位数 \times 3 + 〔良〕修得単位数 \times 2 + 〔可〕修得単位数 \times 1}{総履修単位数}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

【単位の計算方法】学則第21条による

1 単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30時間（講義・演習）、30～45時間（実験・実習・実技）
45時間（臨床実習）

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html に
て公開

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③学科長は、卒業を認定したものに對し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 教育課程の履修、評価および卒業の要件】(卒業の要件)

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1) 理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 / 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

卒業の認定に関する
方針の公表方法

・学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

※2019 年以前入学者

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3120 単位時間	1485 単位時間	765 単位時間	870 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		2 人	1 人	5 人	71 人	76 人	

※2020 年以降入学者

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3175 単位時間	1635 単位時間 /単位	880 単位時間 /単位	660 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2019 年以前入学者と同じ		88 人	0 人	2019 年以前入学者と同じ			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・ 教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等記入の確認を行う。 ・ 外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・ 学内にて最終確認を行う。 ・ 新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・ 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価の方法は学則細則第 3 条 2 項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」と判定している。 各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的に G P A（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 の G P（Grade Point）を付与し、平均点（G P A）を算出している。

卒業・進級の認定基準
(概要) 理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。
学修支援等
(概要) ※2021 年以前入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後 4 年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。 ※2022 年以降入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、同一年次 1 回に限り、後期納付金の納入を猶予及び免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (88%)	3 人 (12%)
(主な就職、業界等) 医療施設（病院等）			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格、文章検定 4 級・3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	17 人	16.8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気、経済的理由など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

①学科等の情報

※2019 年以前入学者

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3105 単位時間	1665 単位時間	405 単位時間	1035 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		2 人	0 人	7 人	52 人	59 人	

※2020 年以降入学者

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3160 単位時間	1740 単位時間 /単位	390 単位時間 /単位	1030 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2019 年以前入学者と同じ		51 人	0 人	2019 年以前入学者と同じ			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・ 教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等記入の確認を行う。 ・ 外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・ 学内にて最終確認を行う。 ・ 新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・ 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価の方法は学則細則第 3 条 2 項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」と判定している。 各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的に G P A（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 の G P（Grade Point）を付与し、平均点（G P A）を算出している。

卒業・進級の認定基準
(概要) 理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。
学修支援等
(概要) ※2021 年以前入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後 4 年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。 ※2022 年以降入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、同一年次 1 回に限り、後期納付金の納入を猶予及び免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (88.2%)	2 人 (11.8%)
(主な就職、業界等) 医療施設（病院等）			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格、文章検定 4 級・3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	7 人	11.9%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気、経済的理由など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理学療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
作業療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院 院長	2021.1.1～ 2023.12.31	企業関係者
奈良県専修学校 各種学校連合会 会長	2020.1.1～ 2023.12.31	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校 副校長	同 上	高校関係者
医療法人和幸会 パークヒルズ田原苑 看護部長	同 上	地域住民
医療法人和幸会 阪奈中央病院 リハビリ部 部長	同 上	企業関係者
医療法人和幸会 阪奈サナトリウム 師長	同 上	卒業生
医療法人和幸会 阪奈中央病院 看護師	同 上	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

＊「－」は、個人情報へ配慮するための伏字であり、記載すべき合計値等には一切影響を与えないことに注意すること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		26 人	21 人	27 人
内 訳	第Ⅰ区分	16 人	11 人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				0 人
合計（年間）				27 人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	一人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

理学療法学科 教育課程

2019年度以前入学者対象

科 目			実務教員 科目	実施時間		単位		1 年次				2 年次				3 年次				卒業必要 単位数	
				講義	演習 実習	講義	演習 実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期			
								時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位		時間
基礎 分野	科学的思考の 基盤 人間と生活 (14 単位)	教育学		15		1		15	1											14 単位	
		心理学		30		2		30	2												
		物理学		15		1		15	1												
		情報処理学		15		1		15	1												
		統計学		15		1		15	1												
		人間工学		30		2		30	2												
		医学英語		30		2		30	2												
		保健体育			30		1	30	1												
		公衆衛生学		15		1		15	1												
		コミュニケーション学		30		2		30	2												
小 計				195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
専門 基礎 分野	人体の 構造と機能 及び 心身の発達 (12 単位)	解剖学Ⅰ		45		1		45	1											28 単位	
		解剖学Ⅱ		45		1				45	1										
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1												
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1										
		生理学Ⅰ		30		1		30	1												
		生理学Ⅱ		30		1		30	1												
		生理学Ⅲ		30		1				30	1										
		生理学Ⅳ		30		1				30	1										
		基礎運動学Ⅰ		45		1		45	1												
		基礎運動学Ⅱ		60		2				60	2										
		人間発達学		30		1						30	1								
		小 計				405	0	12	0	180	5	195	6	30	1	0	0	0	0		0
	疾病と傷害の 成り立ち 及び 回復過程の 促進 (12 単位)	病理学		30		1				30	1									28 単位	
		内科学Ⅰ	○	30		1						30	1								
		内科学Ⅱ	○	30		1								30	1						
		神経内科学Ⅰ	○	30		1						30	1								
		神経内科学Ⅱ	○	30		1								30	1						
		外科学	○	15		1								15	1						
		脳神経外科学	○	15		1								15	1						
		整形外科Ⅰ	○	30		1					30	1									
		整形外科Ⅱ	○	30		1							30	1							
		精神医学	○	30		1						30	1								
		小児科学	○	15		1						15	1								
		臨床心理学		15		1					15	1									
	小 計				300	0	12	0	0	0	30	1	150	6	120	5	0	0	0	0	
	保健医療福祉と リハビリテーション理念 (4 単位)	リハビリテーションⅠ	○	30		1		30	1												
		リハビリテーションⅡ	○	15		1				15	1										
		リハビリテーションⅢ	○	15		1					15	1									
		社会福祉概論		15		1					15	1									
小 計				75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0		
専門 分 野	基礎理学 療法学 (10 単位)	理学療法概論	○	30		1		30	1											61 単位	
		臨床運動学Ⅰ	○		30		1				30	1									
		臨床運動学Ⅱ	○		30		1				30	1									
		動作分析学	○		30		1						30	1							
		理学療法障害学	○	30		1				30	1										
		理学療法研究概論	○	15		1										15	1				
		実習演習	○		60		2									30	1	30	1		
		基礎理学療法学	○		90		2									45	1	45	1		
		小 計				75	240	3	7	30	1	30	1	60	2	30	1	90	3		75
	理学療法 評価学 (9 単位)	理学療法評価学Ⅰ	○	30	45	1	1	75	2												
		理学療法評価学Ⅱ	○	30	45	1	1			75	2										
		理学療法評価学Ⅲ	○	30	45	1	1					75	2								
		理学療法評価演習Ⅰ	○		30		1			30	1										
		理学療法評価演習Ⅱ A	○		45		1					45	1								
		理学療法評価演習Ⅱ B	○		45		1							45	1						
		小 計				90	255	3	6	75	2	105	3	120	3	45	1	0	0	0	0
		理学療法 治療学 (20 単位)	運動療法学	○	15	30	1	1			45	2									
			物理療法学Ⅰ	○	30		1		30	1											
	物理療法学Ⅱ		○	30	30	1	1			60	2										
	義肢装具学Ⅰ		○	45		2						45	2								
	義肢装具学Ⅱ		○	15		1								15	1						
	日常生活動作学Ⅰ		○	30		1				30	1										
	日常生活動作学Ⅱ		○	30		1								30	1						
	理学療法治療各論Ⅰ A		○	30		1						30	1								
	理学療法治療各論Ⅰ B		○		30		1							30	1						
	理学療法治療各論Ⅱ		○	15	30	1	1							45	2						
	理学療法治療各論Ⅲ		○		30		1							30	1						
	理学療法治療各論Ⅳ		○		30		1							30	1						
	理学療法治療各論Ⅴ		○		30		1					30	1								
理学療法治療各論Ⅵ A	○			30		1							30	1							
理学療法治療各論Ⅵ B	○		30		1								30	1							
理学療法治療各論Ⅶ	○		15		1								15	1							
小 計				285	240	12	8	30	1	135	5	105	4	255	10	0	0	0	0		
地域理学 療法学 (4 単位)	生活環境論	○	15		1								15	1							
	リハビリテーション機器	○	15		1										15	1					
	地域理学療法学	○	15		1										15	1					
	地域サービス技術論		15		1										15	1					
小 計				60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	15	1	45	3	0	0		
臨床実習 (18 単位)	観察実習	○		45		1			45	1											
	検査測定実習	○		45		1					45	1									
	評価実習	○		180		4							180	4							
	治療実習Ⅰ	○		300		6									300	6					
	治療実習Ⅱ	○		300		6											300	6			
小 計				0	870	0	18	0	0	45	1	45	1	180	4	300	6	300	6		
合 計			計 73 単位	1485	1635	63	40	570	24	570	19	525	18	645	22	435	12	375	8	103 単位	

理学療法学科 教育課程

2020年度以降入学対象

科 目			実務教員 科目○	実施時間		単位		1 年次				2 年次				3 年次				卒業必 要 単位数
				講義	演習 実習	講義	演習 実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期		
								時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	
基礎 分野	科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解 (14 単位)	教育学		15		1		15	1										14 単位	
		心理学		30		2		30	2											
		物理学		15		1		15	1											
		情報処理学		15		1		15	1											
		統計学		15		1				15	1									
		人間工学		30		2		30	2											
		外国語Ⅰ(医学英語)※選択必修		30		2		30	2											
		外国語Ⅱ(医学日本語)※選択必修		30		2		30	2											
		保健体育			30		1	30	1											
		公衆衛生学		15		1		15	1											
		コミュニケーション学		30		2		30	2											
		小 計		195	30	13	1	210	13	15	1	0	0	0	0	0	0	0		0
専 門 基 礎 分 野	人体の 構造と機能 及び 心身の発達 (15 単位)	解剖学Ⅰ		45		2		45	2										33 単位	
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1									
		生理学Ⅰ		30		1		30	1											
		生理学Ⅱ		30		1		30	1											
		生理学Ⅲ		30		1				30	1									
		生理学Ⅳ		30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅰ		15		1		15	1											
		基礎運動学Ⅱ		30		1		30	1											
		基礎運動学Ⅲ		30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅳ		30		1				30	1									
		人間発達学		30		1					30	1								
		小 計		405	0	15	0	180	7	195	7	30	1	0	0	0	0	0		0
		疾病と傷害の 成り立ち 及び 回復過程の 促進 (14 単位)	病理学		30		1				30	1								
	内科学Ⅰ		○	30		1						30	1							
	内科学Ⅱ		○	30		1								30	1					
	臨床神経学Ⅰ		○	30		1						30	1							
	臨床神経学Ⅱ		○	30		1								30	1					
	整形外科Ⅰ		○	30		1						30	1							
	整形外科Ⅱ		○	30		1									30	1				
	外科・救急医学		○	15		1									15	1				
	精神医学		○	15		1											15	1		
	小児科学		○	15		1						15	1							
	臨床薬学		○	15		1										15	1			
	臨床栄養学		○	15		1												15		
	画像診断学		○	15		1										15	1			
	臨床心理学		○	15		1										15	1			
	小 計		315	0	14	0	0	0	30	1	105	4	105	4	60	4	15	1		
	保健医療福祉と リハビリテーション理念 (4 単位)	リハビリテーションⅠ	○	30		1		30	1											
		リハビリテーションⅡ	○	30		1				30	1									
		リハビリテーションⅢ	○	15		1					15	1								
		社会福祉概論	○	15		1														
		小 計		90	0	4	0	30	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専 門 分 野	基礎理学 療法学 (9 単位)	理学療法概論Ⅰ	○	15		1		15	1									72 単位		
		理学療法概論Ⅱ	○	15		1				15	1									
		臨床運動学Ⅰ	○	30		1					30	1								
		臨床運動学Ⅱ	○	30		1						30	1							
		動作分析学	○	30		1								30	1					
		理学療法障害学	○	30		1				30	1									
		理学療法研究概論	○	15		1										15	1			
		基礎理学療法Ⅰ	○	30		1										30	1			
		基礎理学療法Ⅱ	○	30		1											30			
		小 計		225	0	9	0	15	1	45	2	60	2	30	1	45	2		30	
	理学療法 評価学 (12 単位)	理学療法評価学Ⅰ	○	30	45	1	1	75	2											
		理学療法評価学Ⅱ	○	30	45	1	1			75	2									
		理学療法評価学Ⅲ	○	30	45	1	1					75	2							
		理学療法評価演習Ⅰ	○		45		2			45	2									
		理学療法評価演習ⅡA	○		45		2				45	2								
		理学療法評価演習ⅡB	○		45		2						45	2						
		小 計		90	270	3	9	75	2	120	4	120	4	45	2	0	0	0		
	理学療法管理学 (2 単位)	理学療法管理学Ⅰ	○	15		1									15	1				
		理学療法管理学Ⅱ	○	15		1											15			
	小 計		30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15			
	理学療法 治療学 (24 単位)	運動療法学	○	15	30	1	1			45	2								72 単位	
		物理療法学Ⅰ	○	30		1		30	1											
		物理療法学Ⅱ	○	30		1				30	1									
		義肢装具学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		義肢装具学Ⅱ	○	15		1								15	1					
		日常生活動作学Ⅰ	○		30		1	30	1											
		日常生活動作学Ⅱ	○		30		1							30	1					
		神経理学療法学	○	15	30	1	1					45	2							
		小児理学療法学	○		30		1							30	1					
		脊髄損傷理学療法学	○		30		1							30	1					
		運動器理学療法学	○	15	30	1	1							45	2					
		神経筋離断理学療法学	○		30		1					30	1							
		呼吸理学療法	○		30		1					30	1							
		心血管理学療法学	○	15		1								15	1					
		糖尿病理学療法学	○	15		1								15	1					
		スポーツ理学療法学	○		30		1							30	1					
		がんリハビリテーション	○	15		1										15	1			
		理学療法治療演習Ⅰ	○		30		1									30	1			
		理学療法治療演習Ⅱ	○		30		1											30		
		動物介在療法学Ⅰ※選択	○	05		(1)		05	(1)											
		動物介在療法学Ⅱ※選択必修	○	15		1								15	1					
		パーソナルトレーニング論※選択必修	○	15		1								15	1					
		総合理学療法学	○	30		1												30		
		小 計(選択科目除く)		240	360	12	12	60	2	75	3	135	5	225	10	45	2	60		
	地域理学 療法学 (3 単位)	生活環境論	○	15		1								15	1					
		予防理学療法	○	15		1										15	1			
地域理学療法学		○	15		1									15	1					
小 計			45	0	3	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1				
臨床実習 (22 単位)	観察実習(医療)	○		40		1		40	1											
	観察実習(訪問・通所)	○		40		1		40	1											
	検査測定実習	○		80		2				80	2									
	評価実習	○		160		4						160	4							
	治療実習Ⅰ	○		280		7								280	7					
	治療実習Ⅱ	○		280		7									280	7				
	小 計		0	880	0	22	0	0	80	2	80	2	160	4	280	7	280			
合 計			計 84 単位	1635	1540	75	44	570	26	605	22	545	19	580	22	460	17	415	13	119 単位

作業療法学科 教育課程

2019年度以前入学者対象

授 業 科 目			実務教員 科目に○	授業時間数		単位数		1年				2年				3年				卒業必要 単位数	
				講義	演習 実習	講義	演習 実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期			
基礎 分野	科学的思考の 基盤 人間と生活 (14 単位)	物理学		15		1		15	1											14 単位	
		統計学		15		1		15	1												
		情報処理学		15		1		15	1												
		保健体育			30		1	30	1												
		英語		30		2		30	2												
		教育学		15		1		15	1												
		心理学		30		2		30	2												
		文学		30		2		30	2												
		公衆衛生学		15		1		15	1												
		人間工学		30		2		30	2												
小 計			195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
専門 基礎 分野	人体の構造と 機能と心身の 発達 (17 単位)	解剖学Ⅰ		45		2		45	2											33 単位	
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2										
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1												
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1										
		生理学Ⅰ		30		1		30	1												
		生理学Ⅱ		30		1				30	1										
		生理学Ⅲ		30		1		30	1												
		生理学Ⅳ		30		1				30	1										
		運動学Ⅰ（上肢）		30		1		30	1												
		運動学Ⅱ（上肢）		30		1				30	1										
		運動学Ⅲ（体幹・下肢）		30		1		30	1												
		運動学Ⅳ（体幹・下肢）		30		1				30	1										
		運動学実習			60		2					60	2								
		人間発達学		30		1				30	1										
	小 計			420	60	15	2	195	7	225	8	60	2	0	0	0	0	0	0		
	疾病と傷害の 成り立ち及び 回復過程の促進 (12 単位)	病理学		30		1				30	1										
		内科学Ⅰ	○	30		1						30	1								
		内科学Ⅱ	○	30		1								30	1						
		神経内科学Ⅰ	○	30		1				30	1										
		神経内科学Ⅱ	○	30		1						30	1								
		精神医学Ⅰ	○	30		1				30	1										
		精神医学Ⅱ	○	30		1						30	1								
		臨床心理学		30		1				30	1										
		リハビリテーション医学		30		1						30	1								
		整形外科Ⅰ	○	30		1						30	1								
		整形外科Ⅱ	○	30		1								30	1						
		小児科学	○	15		1						15	1								
		小 計			345	0	12	0	0	0	120	4	165	6	60	2	0	0	0	0	0
		保健医療福祉と リハビリテーション理念 (4 単位)	リハビリテーション概論	○	30		1		30	1											
			社会福祉学		15		1				15	1									
理学療法概論			○	15		1					15	1									
言語聴覚療法概論	○		15		1						15	1									
小 計			75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	0		
専門 分野	基礎作業 療法学 (7 単位)	作業療法概論	○	30		1		30	1											61 単位	
		作業療法管理運営	○	15		1										15	1				
		作業分析学Ⅰ	○	15		1				15	1										
		作業分析学Ⅱ	○	15		1						15	1								
		基礎作業実習Ⅰ	○		30		1	30	1												
		基礎作業実習Ⅱ	○		30		1			30	1										
		作業療法研究法	○	15		1										15	1				
	小 計			90	60	5	2	60	2	45	2	15	1	0	0	30	2	0	0		
	作業療法 評価学 (7 単位)	作業療法評価法総論	○	15		1		15	1												
		作業療法評価法総論演習	○		30		1							30	1						
		作業療法評価技法Ⅰ	○		30		1	30	1												
		作業療法評価技法Ⅱ	○		30		1			30	1										
		作業療法評価技法Ⅲ	○		60		2					60	2								
		作業療法評価技法Ⅳ	○		30		1							30	1						
		小 計			15	180	1	6	45	2	30	1	60	2	60	2	0	0	0	0	
	作業治療学 (20 単位)	身体障害作業療法総論	○	30		1				30	1										
		精神障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
		老年障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
		発達障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
		日常生活活動学	○	30		1						30	1								
		義肢学	○		30		1					30	1								
		装具学	○		45		1							45	1						
		福祉用具支援論Ⅰ	○	30		1						30	1			30	1				
		福祉用具支援論Ⅱ	○	30		1								30	1						
		疾患別作業療法Ⅰ（発達疾患Ⅰ）	○	15		1								15	1						
		疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）	○	15		1								15	1						
		疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）	○	30		1								30	1						
		疾患別作業療法Ⅳ（老年期疾患）	○	30		1								30	1						
		疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）	○	45		2						45	2								
		疾患別作業療法Ⅵ（整形外科疾患）	○	45		2								45	2						
疾患別作業療法Ⅶ（難病）		○	15		1								15	1							
疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）	○	30		1						30	1										
疾患別作業療法Ⅸ（脊椎損傷）	○	30		1								30	1								
小 計			465	75	18	2	0	0	30	1	255	9	255	10	0	0	0	0	0		
地域作業 療法学 (4 単位)	地域作業療法学Ⅰ	○	15		1										15	1					
	地域作業療法学Ⅱ	○	15		1										15	1					
	居住環境整備論	○	15		1										15	1					
	社会生活適応論	○	15		1										15	1					
小 計			60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0	0		
臨床実習 (23 単位)	臨床実習Ⅰ	○		45		1					45	1									
	臨床実習Ⅱ	○		45		1					45	1									
	臨床実習Ⅲ	○		135		3							135	3							
	総合臨床実習Ⅰ	○		405		9									405	9					
	総合臨床実習Ⅱ	○		405		9										405	9				
	小 計			0	1035	0	23	0	0	0	0	90	2	135	3	405	9	405	9		
合 計			計 73 単位	1665	1440	72	36	555	26	480	18	660	23	510	17	495	15	405	9	108 単位	

作業療法学科 教育課程

2020年度以降入学対象

授 業 科 目		実務教員 科目に○	授業時間数		単位数		1年				2年				3年				卒業必 要 単位数		
			講義	演習 実習	講義	演習 実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期				
							時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位			
基礎 分野	科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解 (14単位)	物理学		15		1		15	1										14 単位		
		統計学		15		1		15	1												
		情報処理学		15		1		15	1												
		保健体育			30		1	30	1												
		外国語Ⅰ（医学英語）※選択必須		30		2		30	2												
		外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必須		30		2		30	2												
		教育学		15		1		15	1												
		コミュニケーション学		30		2		30	2												
		心理学		30		2		30	2												
		公衆衛生学		15		1		15	1												
人間工学		30		2		30	2														
小 計			195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
専門 基礎 分野	人体の構造と 機能と心身の 発達 (18単位)	専門基礎概論		30		1		30	1										36 単位		
		解剖学Ⅰ		45		2		45	2												
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2										
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1												
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1										
		生理学Ⅰ		30		1		30	1												
		生理学Ⅱ		30		1				30	1										
		生理学Ⅲ		30		1		30	1												
		運動学Ⅰ（上肢）		30		1		30	1												
		運動学Ⅱ（上肢）		30		1				30	1										
		運動学Ⅲ（下肢・体幹）		30		1		30	1												
		運動学Ⅳ（下肢・体幹）		30		1				30	1										
		運動学実習			60		2							60	2						
		人間発達学Ⅰ（運動）		15		1				15	1										
		人間発達学Ⅱ（心理）		15		1				15	1										
		小 計		420	60	16	2	225	8	195	8	0	0	60	2	0	0	0		0	
		疾病と傷害の 成り立ち及び 回復過程の促進 (14単位)	病理学		30		1				30	1									36 単位
			栄養・薬理学		15		1						15	1							
	臨床検査学			15		1								15	1						
	救急医療概論（喀痰吸引を含む）			15		1								15	1						
	内科学Ⅰ		○	30		1						30	1								
	内科学Ⅱ		○	30		1								30	1						
	神経内科学Ⅰ		○	30		1				30	1										
	神経内科学Ⅱ		○	30		1						30	1								
	精神医学Ⅰ		○	30		1				30	1										
	精神医学Ⅱ		○	30		1						30	1								
	臨床心理学		30		1				30	1											
	整形外科Ⅰ	○	30		1						30	1									
	整形外科Ⅱ	○	30		1								30	1							
	小児科学	○	15		1						15	1									
	小 計		360	0	14	0	0	0	120	4	150	6	90	4	0	0	0	0			
	保健医療福祉と リハビリテーション理念 (4単位)	リハビリテーション概論	○	15		1		15	1												
		社会福祉学		15		1				15	1										
		多職種連携学		30		1				30	1										
		リハビリテーション制度論		15		1						15	1								
		小 計		75	0	4	0	15	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0		
専門 分野	基礎作業 療法学 (5単位)	作業療法概論	○	30		1		30	1							15	1		70 単位		
		作業療法研究法	○	15		1															
		作業分析学	○	15		1				15	1										
		基礎作業実習Ⅰ	○		30		1	30	1												
		基礎作業実習Ⅱ	○		30		1			30	1										
		小 計		60	60	3	2	60	2	45	2	0	0	0	0	15	1	0		0	
	作業療法管理学 (2単位)	作業療法管理学Ⅰ	○	15		1										15	1				
		作業療法管理学Ⅱ	○	15		1										15	1				
		小 計		30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	0		0	
	作業療法 評価学 (9単位)	作業療法評価法総論	○	15		1		15	1												
		生活行為向上マネジメント			15	1								15	1						
		作業療法評価法演習	○	45	2									45	2						
		作業療法評価技法Ⅰ	○	30		1		30	1												
		作業療法評価技法Ⅱ	○	30		1				30	1										
		作業療法評価技法Ⅲ	○	60		2						60	2								
		作業療法評価技法Ⅳ	○	30		1								30	1						
		小 計		15	210	4	5	45	2	30	1	60	2	90	4	0	0	0		0	
	作業療法治療学 (23単位)	身体障害作業療法総論	○	30		1				30	1										
		精神障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
		老年期障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
		発達障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
		疾患別作業療法Ⅰ（発達疾患Ⅰ）	○	15		1								15	1						
		疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）	○	15		1								15	1						
		疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）	○	30		1								30	1						
		疾患別作業療法Ⅳ（老年期疾患）	○	30		1								30	1						
		疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）	○	45		2						45	2								
		疾患別作業療法Ⅵ（整形外科疾患）	○	45		2								45	2						
		疾患別作業療法Ⅶ（難病）	○	15		1								15	1						
		疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）	○	30		1						30	1								
		疾患別作業療法Ⅸ（脊髄損傷）	○	30		1								30	1						
		動物介在療法Ⅰ	○	15		1				15	1					15	1				
		動物介在療法Ⅱ	○	15		1															
		日常生活活動学	○	30		1						30	1								
		義肢学	○	15		1								15	1						
		接具学	○		45		1					45	1								
		福祉用具支援技術論	○	45		2						45	2								
		福祉用具支援技術論演習	○		15		1					15	1								
		小 計		495	60	21	2	0	0	45	2	300	11	210	10	0	0	0		0	
	地域 作業療法学 (4単位)	地域作業療法学Ⅰ	○	15		1										15	1				
		地域作業療法学Ⅱ	○	15		1										15	1				
		地域作業療法学Ⅲ	○	15		1										15	1				
		居住環境整備論	○	15		1										15	1				
		小 計		60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0		0	
	臨床実習 (25単位)	臨床見学実習Ⅰ	○		40		1					40	1								
		臨床見学実習Ⅱ	○		40		1					40	1								
地域臨床見学実習		○		80		2		80	2												
臨床評価実習		○		120		3						120	3								
総合臨床実習Ⅰ		○		360		9								360	9						
総合臨床実習Ⅱ		○		360		9									360	9					
小 計		○	1000	0	25	0	0	80	2	80	2	120	3	360	9	360	9				
総合実習 (2単位)	作業療法総合学習Ⅰ	○	15		1											15	1				
	作業療法総合学習Ⅱ	○	15		1											15	1				
	小 計		30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2				
合 計		計 79 単位	1740	1420	83	37	570	27	560	21	605	22	570	23	465	16	390	11	120 単位		

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

本校では、公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、GPA（Grade Point Average）制度を用いた成績評価を行い、修学指導や優秀な学生の表彰等に利用する。

成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。
さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP（Grade Point）を付与し、次のとおり平均点（GPA）を算出している。

1. GPA成績評価について

標語	GP	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合 格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70点未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. GPAの算出方法

$$\frac{〔秀〕修得単位数 \times 4 + 〔優〕修得単位数 \times 3 + 〔良〕修得単位数 \times 2 + 〔可〕修得単位数 \times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

以上

卒業の認定に関する方針について

理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

卒業の認定について

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1) 理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 / 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

以上

講義概要

2022 年度

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《基礎分野》 ＝科学的思考の基盤・人間と生活＝

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	遠藤 陽	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	子ども、障害、からだ等の観点から、他者と関わることについて考え直し、医療従事者としての教育観を探究することを目指す。		
授業計画 Course Content	1 はじめに／教育について学ぶ意義 2 <子どもの誕生>子ども観と教育観の変遷 3 障害のある子どもの理解と特別支援教育 4 障害へのまなざしの変化 5 こころとからだ 6 からだと表現 7 発達障害の子の感覚遊び、運動遊び 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末試験 60%（8 回分の講義の中で深めたい内容を 1 つ選択し、文献、資料を参照の上、レポート記述。） 平常点 40%（出席、ミニレポート、授業への意欲・態度）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小野 隆章	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床の 2 極であるストレスとリラックスについて理解を深め、臨床心理学につなげる。		
授業計画 Course Content	1 YG 性格検査 2 YG 解説と性格心理学 3 心理学序論（人間学）、ストレス論 4 ストレッサー、1 次・2 次ストレス 5 発症因と症状論 6 ストレス・トラランス 7 ストレス感染論 8 症状と性格 9 リラックス論 10 心理カウンセリング論 11 心理カウンセリングの種類と実際 12 リラックス法 13 防衛機制など 14 治癒と性格など 15 人生プロセス		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（論述式、持込不可）により理解力、表現力、総合力を評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	随時レジユメを使用する。テキストは用いない。口述、板書の記録が大切になる。		

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2 つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	1 物理量とその表し方 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 運動、仕事のエネルギー 6 温度と熱 7 波の運動 8 電流と抵抗		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト 30 % 期末試験 70 %		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」 羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	1 Word の基本操作（１）：基本的な文書作成 2 Word の基本操作（２）：文書の編集 3 Excel の基本操作（１）：データの入力・編集 4 Excel の基本操作（２）：表の作成 5 Excel の基本操作（３）：数式・関数の利用 6 Excel の基本操作（４）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 単位認定試験		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」40 点、「単位認定試験」60 点で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安岡 良訓	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の分野では EBM として科学的根拠に基づく理学療法が求められる。そのためには文献、論文、研究雑誌を理解できる能力が必要である。3 年生で行われる理学療法研究概論に先立ち、統計学を理解しながら理学療法のエビデンスに触れる機会とする。		
授業計画 Course Content	1 尺度・代表値 2 度数分布表、グラフ 3 正規分布、母集団と標本、標本抽出法 4 仮説検定の考え方、2 群の平均値に関する検定 5 3 群の平均値に関する検定 6 相関、相関係数に関する検定 7 データの処理と統計の実践 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「すぐできる！リハビリテーション統計」第 2 版 南江堂		
備 考 Other Comments	講義、グループ学習等を通して内容の理解を深める。例題、練習問題を利用する。 Excel、統計ソフトを使用し統計処理方法を理解する。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年の経験を有する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適なものにしていくことが、今強く求められている。特に高齢社会においては、年齢や障害の有無を問わず、誰でも豊かで健康的な生活を送るために必要不可欠なことである。 たとえば、椅子やベッドなどの家具を身体サイズに合わせたり、照明・空調・トイレなどの住宅設備を負担の少ない快適なものにしたり、パソコンや洗濯機などの家電製品を操作しやすい安全なものにすることなどがそれに当たる。人間工学はこうしたモノや空間を様々な人々が使えるように考えていく学問である。リハビリや要介護者のケア、生活環境の改善等に関わる理学療法士・作業療法士にも当然必要な素養である。 講義では、介護やリハビリを行う上で考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、それに合ったモノや環境づくり、そしてその使い方のガイドラインを紹介していく。		
授業計画 Course Content	毎回1つのテーマを取り上げていく。全体は2部構成となっており、第1部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第2部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。 〔第1部：人の心身機能とその特性〕 1 イントロダクション ー人間工学とは何か、どう役立つのか 2 人間工学に基づくイスの設計 ーバイオメカニクスの視点 3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ー人体寸法とデザイン 4 悪い姿勢が体を壊す ー運動機能と身体負担 5 感覚は五感だけではない ー感覚の種類と視覚機能 6 人はどのように見ているのか ー視覚の生理学 7 人は見たモノをどのように感じているのか ー視覚の心理学 8 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン 〔第2部：介護・リハビリのための応用人間工学〕 9 エイジングと高齢者の居住環境 ー高齢社会に対応したモノづくり 10 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ーユニバーサルデザインと人間工学 11 姿勢と動作、介護現場の事例 12 ボディメカニクス、福祉機器の設計 13 リハビリの安全と生理 14 演習：病院のユニバーサルデザイン 15 まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況と試験成績。試験は授業内容を問う基本的なもの。		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備 考 Other Comments	毎回プリントを配布し、必要に応じて副読本を紹介する。		

科目名 Course title	外国語 I（医学英語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article（原著論文）Case Report（症例報告）Review Article（総説）とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう（グループワーク） 13 論文を読んでみよう（グループワーク） 14 臨床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点 10% グループワーク 30% 定期試験 60%		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 理学療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験 1 級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および 1 年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験 N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験 N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験 N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靱帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ラケット競技（バドミントン・ショートテニス・卓球） 3 バドミントン 4 卓球 5 バレーボール 6 バレーボール 7 ショートテニス 8 バスケットボール 9 バドミントン 1 0 バスケットボール 1 1 卓球 1 2 フットサル 1 3 ショートテニス 1 4 フットサル 1 5 バレーボール		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席重視		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三宅 眞理	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）：①公衆衛生学の必要性和重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動をじっせんできる力を養成する。		
授業計画 Course Content	第1回 公衆衛生の概念・健康と疫学的研究 第2回 健康の指標 第3回 感染症と食品衛生 第4回 生活環境の保全 第5回 医療・介護の保障制度 第6回 地域保健活動 母子保健と学校保健 第7回 生活習慣病と健康教育・難病 第8回 精神保健福祉と産業保健 まとめ		
成績評価等	筆記試験		
教科書 Textbooks	「わかりやすい公衆衛生」ヌーヴェルヒロカワ		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自分自身の性格を知った上で、自身が集団においてどのように振る舞えるのか、振る舞うべきなのかを学び、さらに臨床実習に必要な対人スキルを学ぶ。 それらを理解したのち、社会人としてだけではなく、さらに医療を担う者として、どのようなコミュニケーション能力が必要か、また患者に対して、チーム医療としてのコミュニケーションの重要性を学び、実技を交えて習得していくことを目標とする。		
授業計画 Course Content	1 PT の学校に入ってから自身の現状を理解する 2 医療者に必要な身なり、態度を理解する 3 コミュニケーションとは。臨床実習で必要とされるコミュニケーションとは 4 自分を理解する（エゴグラム等） 5 自己肯定感の必要性。持つ方法 6 自身の態度を知る。ポーターの態度類型 7 理学療法士の学生に求められる態度を考える 8 クラスでの取り組み方について考える（学ぶ空間） 9 言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション 10 観察する力と傾聴する力について考える。身につける。 11 伝える力を身につける 12 OSCE を使用したコミュニケーションの実践練習 13 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 14 臨床で役立つコミュニケーションスキル 15 実際の患者を想定したコミュニケーションの実践		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第2版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田 雅朗	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	人体を構成する器官のうち、骨格と関節・靭帯について学ぶ。 各部位の名称とともに、その構造や働きについて理解する。		
授業計画 Course Content	1 骨学総論 骨格の分類 骨の形態・分類・構造、骨の血管と神経、骨の機能 2 骨学総論 骨発生（軟骨内骨化と膜内骨化）と骨のリモデリング 3 骨学各論 頭蓋骨：顔面頭蓋、脳頭蓋 4 骨学各論 頭蓋骨：内頭蓋底と外頭蓋底、新生児の頭蓋冠 5 骨学各論 脊柱：脊柱の全景、各椎骨の特徴 6 骨学各論 胸郭：胸郭の全景、構成する骨の特徴（胸椎、肋骨、肋骨） 7 骨学各論 上肢骨：上肢帯骨（鎖骨、肩甲骨） 8 骨学各論 上肢骨：自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨） 9 骨学各論 下肢骨：下肢帯（寛骨、骨盤） 10 骨学各論 下肢骨：自由下肢骨（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨） 11 骨実習 12 骨実習 13 関節・靭帯総論 関節の連結様式による分類と運動軸、基本構造、関節の機能 14 関節・靭帯各論 頭蓋の縫合、顎関節 15 関節・靭帯各論 脊柱の連結（関節）、脊柱の運動 16 関節・靭帯各論 胸郭の連結（関節）、胸郭の運動 17 関節・靭帯各論 上肢：上肢帯の連結、自由上肢骨の連結、肩関節の運動 18 関節・靭帯各論 上肢：肘関節と靭帯、橈骨と尺骨の連結、関節の運動 19 関節・靭帯各論 上肢：手関節、手根骨の関節、指節間関節、関節の運動 20 関節実習（顎関節、環椎後頭関節、環軸関節、肋椎関節） 21 関節・靭帯各論 下肢：下肢帯の連結、自由下肢骨の連結 1、股関節の運動 22 関節・靭帯各論 下肢：自由下肢の連結 2（膝関節、脛腓関節、足関節、足根骨の関節）、関節の運動 23 関節実習（仙腸関節、股関節、膝関節、足関節、足根骨の関節）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習の評価点、試験の成績を合わせて行う		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田 雅朗	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	全身の筋を知り、起始・停止の部位から作用を理解できる。 神経の基本構造を知り、筋・臓器との関連を理解できる。伝導路の構成を理解できる。		
授業計画 Course Content	1 筋学総論 骨格筋組織、筋の構造と形態による分類、筋の補助装置、運動単位 2 筋学各論 上肢の筋（上肢帯、上腕の筋） 3 上肢の筋（前腕、手の筋） 4 下肢の筋（下肢帯、大腿、下腿の筋） 5 下肢の筋（足の筋） 6 体幹の筋（頭頸部の筋） 7 体幹の筋（背部、胸部、腹部の筋） 8 筋学実習 （骨格標本と筋のペーパーモデルを用いて） 9 神経学総論（神経組織、神経系の分類と構成） 1 0 神経学総論（神経系の発生、脊髄と脳の発生、末梢神経系の発生） 1 1 神経学各論 中枢神経系（脊髄） 1 2 中枢神経系（脳幹、小脳） 1 3 中枢神経系（間脳、終脳） 1 4 中枢神経系（終脳） 1 5 末梢神経系（脊髄神経） 1 6 末梢神経系（脊髄神経） 1 7 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） 1 8 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） 1 9 末梢神経系（自律神経） 2 0 伝導路（下行性：錐体路と錐体外路） 2 1 伝導路（上行性：感覚の伝導路） 2 2 伝導路（上行性：感覚の伝導路） 2 3 復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習の評価点、小テスト、授業態度、試験の成績を合わせて行う		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上皮組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 15 腹膜、間膜		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅳでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系、生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 3 泌尿器系：腎小体、尿細管 4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤 10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン 12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 13 眼：眼球の構造 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。(100%)		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生体の機能、働きとそのメカニズム・仕組みを学ぶ。 生命現象発現の基本単位は細胞である。細胞が集合して組織を形成し、数種の組織が集合して器官となり、さらに多くの器官が集合して個体となる。ミクロからマクロに視点を移すにつれ、複雑な機能が発現する。細胞に存在する声明の諸反応の基本から器官レベルまでを知る。またそれらが、結合され保たれていることを一貫して理解する。		
授業計画 Course Content	1 生理学の基礎① 細胞の機能的構造 2 生理学の基礎② 物質の移動 3 神経の基本的機能① 神経細胞の構造と働き 活動電位 4 神経の基本的機能② 興奮の伝導 5 神経の基本的機能③ 興奮の伝導 6 筋肉の基本的構造① 骨格筋の構造と作用 7 筋肉の基本的構造② 筋収縮の仕組み 8 筋肉の基本的構造③ 筋収縮のエネルギー代謝 9 筋肉の基本的構造④ 平滑筋と心筋 1 0 神経系の構成① 反射の基礎 神経系の構成 1 1 神経系の構成② 脊髄と脊髄神経 1 2 神経系の構成③ 脳幹と脳神経 1 3 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系 1 4 自律神経系と内臓機能② 化学伝達物質と受容体 1 5 自律神経系と内臓機能③ 内臓反射		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 1 0 0 点満点中 6 0 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。 様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。 本科目では、体液、体性神経系と運動の機能、中枢神経系の高次機能、感覚器系の構成と機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 体液とその調節① 体液の区分と組織 酸塩基平衡の調節 2 体性神経系と運動機能① 脊髄の運動機能 3 体性神経系と運動機能② 脳幹の運動機能 4 体性神経系と運動機能③ 小脳・間脳の運動機能 5 体性神経系と運動機能④ 大脳基底核の運動機能 6 体性神経系と運動機能⑤ 錐体路 7 中枢神経系の高次機能① 新皮質の構造と機能分化 8 中枢神経系の高次機能② 新皮質連合野の統合機能 9 中枢神経系の高次機能③ 睡眠と覚醒 1 0 中枢神経系の高次機能④ 辺縁系と視床下部の機能 1 1 感覚系の構成と機能① 感覚の一般的性質 1 2 感覚系の構成と機能② 体性感覚 内臓感覚 1 3 感覚系の構成と機能③ 視覚 1 4 感覚系の構成と機能④ 聴覚と平衡感覚 1 5 感覚系の構成と機能⑤ 嗅覚と味覚		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 1 0 0 点満点中 6 0 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学は理学療法士にとって必ずマスターしておかなければならない学問である。障害された「日常生活に必要な基本動作」の回復を促すには、ヒトの解剖学的知識に加え生理学的知識、特に中枢神経系が如何に身体からの情報を受け取り、処理し、そして身体を制御しているのかという生理学的知識が不可欠である。		
授業計画 Course Content	1 神経細胞とシナプスに関する復習、中枢神経系の構造・機能の網羅的学習 2 脳室と脳脊髄液・血液脳関門のはたらき、必須アミノ酸と脳内ホルモンの関係 3 生命維持装置としての脳のしくみ：脳幹、間脳（視床と視床下部）の構造・機能 4 運動（動作）制御のしくみ：大脳基底核の構造・機能、小脳の構造・機能 5 筋と骨の動き：骨格筋・心筋・平滑筋・骨の構造・機能、骨の成長・老化 6 高次脳機能・情動の発現のしくみ：大脳皮質の構造・機能、間脳による情動発現 7 記憶のしくみ：辺縁系の構造・機能、理学療法・作業療法と記憶の関連 8 一般感覚：体性感覚の構造・機能、痛覚のしくみ 9 一般感覚：内臓感覚の構造・機能、内臓痛と関連痛のしくみ 10 特殊感覚：視覚のしくみ 11 特殊感覚：聴覚のしくみ、平衡感覚のしくみ 12 特殊感覚：味覚のしくみ、嗅覚のしくみ 13 筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源 14 運動に伴う全身の変化 15 トレーニング効果と加齢変化（老化）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	人体の機能について、自律神経、血液、心臓、呼吸、内分泌などについて教える。		
授業計画 Course Content	1 内分泌の機能 2 内分泌の機能 3 内分泌の機能 4 生殖機能 5 生殖機能 6 生殖機能 7 尿の生成と排泄 8 尿の生成と排泄 9 尿の生成と排泄 10 体液とその調節 11 体液とその調節 12 体液とその調節 13 体温とその調節 14 体温とその調節 15 体温とその調節		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 1 0 0 点満点中 6 0 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	基礎運動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の内容を確認し、なぜ基礎運動学が必要なのかを学ぶ。 我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学 I においては、神経細胞、筋細胞、神経筋接合部、筋収縮のメカニズムなど神経筋機能の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 運動学とその領域 運動学の歴史 運動学の現状と展望 2 身体運動と力学 身体運動の面と軸 筋力と重力 モーメント 3 運動法則 仕事とエネルギー 身体とてこ 骨と関節の運動 4 細胞 ・細胞の構造 ・細胞内での化学反応・細胞膜の興奮 ・神経線維の興奮伝導 ・神経線維の種類 5 運動器の構造と機能 ・骨の構造と機能 ・関節の構造と機能 ・腱および靭帯の構造と機能 6 運動器の構造と機能 ・骨格筋の構造 ・骨格筋の血管 ・骨格筋の微細構造と筋収縮機序 ・筋線維の種類 7 運動器の構造と機能 ・神経筋接合部と神経筋伝達 ・運動単位 ・筋収縮の基礎的性質 ・筋収縮の様態 ・筋の働き ・筋肥大と筋萎縮 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	前期単位認定試験を実施し、評価を行う。 (中間試験と最終試験 2 回実施し、評価を行う。50 点／50 点とする。)		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第 6 版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	資料配布 (確認の為の小テストと解説資料)		
実務経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学Ⅱにおいては、中枢神経、末梢神経、感覚器および上肢帯と上肢の関節、靱帯、筋機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 神経系 2 神経系 感覚器の構造と機能 3 運動の中枢神経機構 4 神経系まとめ 5 上肢帯と上肢の運動 上肢帯と肩関節の運動 関節と靱帯 上肢帯と肩関節の動き 6 上肢帯と上肢の運動 上肢帯と肩関節の運動 上肢帯の筋 7 上肢帯と上肢の運動 上肢帯と肩関節の運動 肩関節の筋 8 上肢帯と上肢の運動 肘関節と前腕の運動 関節と靱帯 肘関節の動き 9 上肢帯と上肢の運動 肘関節の筋 1 0 上肢帯と上肢の運動 1 1 上肢帯と上肢の運動 手、手関節、前腕 1 2 上肢帯と上肢の運動 手、手関節、前腕 1 3 上肢帯と上肢の運動 手、手関節、前腕 1 4 総復習 国家試験問題 1 5 総復習 国家試験問題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する。		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	股関節、膝関節、足関節の関節構造と機能を学習する。運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。したがって運動学的知識は先の評価・治療の学習を見据え、骨模型や生体を通じ動的なイメージも身につけること、各関節の構造と機能を説明できることを目標とする。		
授業計画 Course Content	1 骨盤と股関節の構造 2 股関節の運動 3 股関節屈筋 起始・停止、作用、支配神経 4 股関節伸筋 起始・停止、作用、支配神経 5 股関節外転筋 起始・停止、作用、支配神経 6 股関節内転筋 起始・停止、作用、支配神経 7 股関節内・外線筋 起始・停止、作用、支配神経 8 膝関節の構造(関節、靱帯、半月) 9 膝関節の運動 転がり滑り、Screw-home movement、locking mechanism 10 膝関節伸筋 起始・停止、作用、支配神経 11 膝関節屈筋 起始・停止、作用、支配神経 12 足関節の構造(関節、靱帯) 13 足関節の構造(アーチ構造) 14 足関節背屈筋 起始・停止、作用、支配神経 15 足関節底屈筋 起始・停止、作用、支配神経		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する。		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容			

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。体幹の関節構造と機能の学習が胸腰部の疾患や障害の評価・治療の学習に繋がるよう基盤の形成を目指す。 基本的動作能力の回復が理学療法の目的であり、立位や歩行は基本動作の中でも重要視される姿勢と動作である。これらの運動学的知見は姿勢動作観察分析に必要不可欠であるため、本講義で網羅的に姿勢歩行の運動学的知識の修得を目指す。		
授業計画 Course Content	1 脊柱の構造 2 脊柱の運動 3 体幹筋の構造と機能(体幹伸筋、屈筋、深層筋、バルサルバ効果) 4 姿勢 力学の基礎(重心、重心線、支持基底面) 5 姿勢 力学の基礎(重心と筋活動、床反力と筋活動) 6 安静時立位姿勢と筋活動 立位姿勢制御 7 歩行 基礎知識 歩行周期 8 歩行 基礎知識 歩行周期 9 歩行時の重心とその仕組み 10 歩行 関節角度 11 歩行 筋活動 12 歩行 筋活動 13 歩行 関節モーメント 14 歩行 関節モーメント 15 総復習 国家試験問題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する。		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員4年の経験を有する。		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content	1 病理学とは何か？（病因論）病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構、細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理 2 炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症 3 免疫機構：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患 4 循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症 5 循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気 6 腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学 7 呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、COPD、肺炎、肺がん 8 代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常 9 消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気 10 遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断 11 造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気 12 泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、織毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気 13 中枢神経系・末梢神経系：脳血管障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、脳腫瘍 14 運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気 15 病理学総括（復習・国家試験対策）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	評価エフォート：本試験 90% 出席率 5% 小テスト成績 5% 備考：出席点、小テストにおける成績は、本試験の成績に対し考慮する。 一方、本試験に対しては出席点、小テストの成績は減点対象とはしない。		
教科書 Textbooks	「シンプル病理学 改訂第7版」南江堂		
備 考 Other Comments	すべての講義で 10 分程度の小テスト実施。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅠ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・リハビリテーションとは何かを理解して理学療法士の役割を知ること ・障害についての概要を理解すること ・リハビリテーションに関連する社会保障について理解すること - A 医療保険：保険診療とは何か。施設基準、疾患別リハビリテーション料、算定日数など臨床現場で必要となる知識を理解する。 - B 介護保険：介護保険制度の目的。施行から現在までの動向。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、退院（退所）前訪問、介護保険で利用できる福祉用具の説明など、臨床現場で必要となる知識を理解する。		
授業計画 Course Content	1 リハビリテーションの語源 2 リハビリテーションの目指すもの 3 障害の理解（ICIDH、ICF） 4 リハビリテーションにおける基本的アプローチ 5 リハビリテーションにおける基本的アプローチ 6 障害体験（実地授業） 7 障害体験（実地授業） 8 障害の受容 9 トータルリハビリテーション 10 リハビリテーション医学 11 リハビリテーション職種と役割 12 廃用症候群 13 代表的な疾患と障害 14 医療と介護保険 15 社会保障制度		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	体験学習のレポート提出（20 点）及び筆記試験（80 点）		
教科書 Textbooks	「目で見えるリハビリテーション医学 第2版」 東京大学出版会		
備 考 Other Comments	障害体験実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（OT・ST・NS）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士・言語聴覚士・看護師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（作業療法） 作業療法とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。 （言語聴覚療法） 実務経験療法における概論を学ぶことで、将来チームで協業することについて身近なものと感じてもらいたい。また、実務経験療法で、できることを学んでいただこうと思います。 （看護師） 看護師とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。		
授業計画 Course Content	総論 1 他職種連携とは 2 IPWとIPEについて （作業療法） 3 作業療法とは、リハビリテーション職としての協業 4 歴史 5 ケースを通した関わり 6 回復段階における役割 （言語聴覚療法） 7 コミュニケーション障害総論 8 失語症各論、②構音障害 9 摂食・嚥下障害総論、②摂食・嚥下障害 演習 10 発達期の実務経験障害、聴覚系 （看護） 11 看護とは 12 看護の提供者とその仕組み 13 看護過程について 14 ナースアプローチを行ううえで、療法士に期待する事 まとめ 15 総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（作業療法）筆記試験 （言語聴覚療法）筆記試験 （看護師）筆記試験		
教科書 Textbooks	「絵でわかる実務経験障害－言葉のメカニズムから対応まで 第2版」 学研メディカル秀潤社		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員25年の経験を有する。 言語聴覚士・看護師については関連医療法人より講師派遣依頼予定		

科目名 Course title	社会福祉概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content	1 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは 2 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 3 わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 4 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について 5 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 6 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について 7 高齢者の福祉 介護保険制度について 8 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法概論 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び、職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 理学療法の概念と歴史 2 理学療法士の法律：「理学療法士及び作業療法士法」 3 理学療法の意義と役割 4 理学療法の対象 5 理学療法の方法 6 理学療法士の組織 7 理学療法士教育 8 医療・保険分野の理学療法		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験形式（100 点満点）で評定		
教科書 Textbooks	「理学療法概論 第4版」 神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法概論Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び、職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 地域リハビリテーションと理学療法 2 医療事故とリスクマネジメント 3 ハラスメントについて 4 個人情報の管理と対象者の権利 5 理学療法士を目指す学生に求められるもの 6 理学療法士研究について 7 臨床で求められる学生とは 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験形式（100 点満点）で評定		
教科書 Textbooks	「理学療法概論 第4版」 神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法障害学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	障害の科学的研究により、どのような障害がどの程度起こるのか、どの程度改善するのか、リハビリテーションの主軸は何かを学ぶ。1 年生の観察実習、2 年生の演習授業に先立ち、大まかな病態を把握し障がいを予想できるレベルを目指す。		
授業計画 Course Content	機能障害の病態生理と回復過程、各種合併症の病態生理、リハビリテーション治療学の基礎 1 「障害」とはなにか、障害学の概要 2 骨折・関節症について、病態の理解、回復過程 3 骨折・関節症の治療過程（頸部骨折） 4 骨折・関節症に対するリハビリテーション治療の概要、予後 5 末梢神経障害について、病態の理解、回復過程 6 末梢神経障害の治療過程 7 末梢神経障害に対するリハビリテーション治療の概要、予後 8 中枢神経障害について、病態の理解、（脳卒中、パーキンソン、脊髄損傷） 9 中枢神経障害の回復過程 10 中枢神経障害の治療過程（脳卒中、パーキンソン、脊髄損傷） 11 中枢神経障害に対するリハビリテーション治療の概要、予後 12 靱帯・筋損傷について、病態の理解、回復過程 13 靱帯・筋損傷の治療過程 14 靱帯・筋損傷に対するリハビリテーション治療の概要、予後 15 まとめ 上記内容を解剖学・生理学の復習を含めアクティブラーニングとして実施し、勉強の仕方や調べ方を経験し、能動的な学習が可能になることを目指す。また廃用症候群の理解について他講義の理解度を確認し必要であれば15のまとめで解説する。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準リハビリテーション医学 第3版」 医学書院 「リハビリテーション基礎医学 第2版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験9年及び専任教員6年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	7 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【講義概要】 理学療法における評価と検査を伝え、評価の重要性について解説する。 バイタルサインチェック（血圧、脈拍、呼吸、血中酸素）、形態測定（四肢長、四肢周径）、関節可動域測定の意義、目的を明確にした上で検査方法の習得を促す。また関節の解剖学的構造を踏まえた運動方向の理解を図りつつ同時に実施時の患者への配慮を学ぶ。 【到達目標】 理学療法プロセスにおけるバイタルサインチェック、形態測定、関節可動域測定の意義や必要性、臨床においての重要性を理解できる。また、正確に実施することができる。		
授業計画 Course Content	1 理学療法評価 総論 2 バイタルサインチェック① バイタルサインとは、脈拍の測定方法の解説と実施 3 バイタルサインチェック② 血圧について、血圧の測定方法の解説と実施 4 バイタルサインチェック② 呼吸について、呼吸の評価方法の解説と実施 5 形態測定① 形態測定とは、胸囲、腹囲、四肢長と四肢周径の計測意義 6 形態測定② 上肢長（上肢長、上腕長、前腕長）測定方法の解説と実施 7 形態測定③ 下肢長（棘果長、転子果長、大腿長、下腿長）測定方法の解説と実施 8 形態測定④ 上肢周径（上腕周径、前腕周径）測定方法の解説と実施 9 形態測定⑤ 下肢周径（大腿周径、下腿周径）測定方法の解説と実施 10 形態測定⑥ 形態測定の検査結果の解釈について 11 関節可動域測定の意義、目的 12 他動運動と自動運動について 13 ゴニオメーターの操作練習 14 関節可動域測定① 肩甲帯（屈曲、伸展） 15 関節可動域測定② 肩甲帯（挙上、下制） 16 関節可動域測定③ 肩関節（屈曲、伸展） 17 関節可動域測定④ 肩関節（内転、外転） 18 関節可動域測定⑤ 肩関節（内旋、外旋） 19 関節可動域測定⑥ 肘関節（屈曲、伸展） 20 関節可動域測定⑦ 前腕（回内、回外） 21 関節可動域測定⑧ 手関節（掌屈、背屈） 22 関節可動域測定⑨ 手関節（尺屈、橈屈） 23 関節可動域測定⑩ 頸部（屈曲、伸展） 24 関節可動域測定⑪ 頸部（回旋、側屈） 25 関節可動域測定⑫ 体幹（屈曲、伸展） 26 関節可動域測定⑬ 体幹（回旋、側屈） 27 関節可動域測定⑭ 股関節（屈曲、伸展） 28 関節可動域測定⑮ 股関節（内転、外転） 29 関節可動域測定⑯ 股関節（内旋、外旋） 30 関節可動域測定⑰ 膝関節（屈曲、伸展） 31 関節可動域測定⑱ 足関節（背屈、底屈） 32 関節可動域測定⑲ 足部（内がえし、外がえし） 33 関節可動域測定⑳ 手指 34 関節可動域測定㉑ 足趾 35 関節可動域測定㉒ 各関節可動域測定別法① 36 関節可動域測定㉓ 各関節可動域測定別法② 37 理学療法評価プロセス① ボトムアップ思考について 38 理学療法評価プロセス② トップダウン思考について		
成績評価の方法・基準・評価	【成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies/Evaluation Criteria】 筆記試験（中間試験、終講試験）・実技試験 の3つの成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第2版」 メジカルビュー社 「PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版」三輪書店 「理学療法評価学 第6版補訂版」金原出版株式会社		
備 考	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験8年及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	7 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	筋力測定の意義を理解する MMT の原理・原則を理解する。 各測定項目の計測の基本と注意点を習得し、健常者を対象に適切な方法かつ妥当な時間で検査を実践できる。		
授業計画 Course Content	1 概論 筋力とは MMT の原理、原則、注意点 2 頭部伸展、頸部伸展、頸部複合伸展の MMT 3 頭部屈曲、頸部屈曲、頭頸部複合屈曲の MMT 4 頸部回旋の MMT、頭頸部 MMT のまとめ 5 体幹伸展、骨盤挙上、体幹側面の MMT 6 体幹屈曲、体幹回旋の MMT 7 安静な吸気 体幹 MMT のまとめ 8 肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨挙上(僧帽筋)の MMT 9 肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 10 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群)、肩甲骨下制(広背筋、大円筋、三角筋後部) 11 肩関節屈曲、肩関節屈曲(前方拳上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋) 12 肩関節伸展(後方拳上)(三角筋後部)、肩関節外転(側方拳上)(三角筋中部および棘上筋) 13 肩関節水平外転(三角筋後部)、肩関節水平内転(大胸筋) 14 肩関節外旋(棘下筋、小円筋)、肩関節内旋(肩甲下筋) 15 まとめ 肩甲骨、肩関節の MMT 16 肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋)、肘関節伸展(上腕三頭筋) 17 前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) 18 手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋) 19 まとめ 肘、前腕の MMT 20 指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋)、PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋) 21 指 MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋)、指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋) 22 母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP、IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) 23 母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、対立運動(母指対立筋、少子対立筋) 24 手指 MMT のまとめ 25 股関節屈曲(大腰筋、腸骨筋)、股関節屈曲、外転、外旋(縫工筋) 26 股関節伸展(大殿筋、ハムストリングス) 27 股関節外転(中殿筋、小殿筋)、股関節屈曲位からの外転(大腿筋膜張筋) 28 股関節内転(大内転筋、短内転筋、長内転筋、恥骨筋、薄筋) 29 股関節外旋(内外閉鎖筋、上下双子筋、梨状筋、大腿方形筋)、股関節内旋(中小殿筋、大腿筋膜張筋) 30 まとめ 股関節 MMT 31 膝関節屈曲(ハムストリングス)、膝関節伸展(大腿四頭筋) 32 足関節底屈(腓腹筋、ヒラメ筋)、足関節背屈内がえし(前脛骨筋) 33 足の内がえし(後脛骨筋)、足の底屈を伴う外がえし(長短腓骨筋) 34 まとめ 膝関節、足関節、足の MMT 35 母指と足ゆびの MP 関節屈曲(虫様筋、短母指屈筋)、DIP、PIP 関節屈曲(張氏屈筋、短指屈筋、長母指屈筋) 36 母指と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展(長趾伸筋、短指伸筋、長母指伸筋) 脳神経支配筋のテスト 37 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法) 38 総まとめ		
成績評価の方法・基準・評価	筆記試験及び実技試験で評定		
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第2版」 メジカルビュー社 「PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版」三輪書店 「理学療法評価テキスト 改訂第2版」南江堂		
備 考	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	変形性股関節症について調べ・説明することができる。 模擬患者に評価の過程を実践し、障害像を把握する方法を理解する。		
授業計画 Course Content	1 正常股関節の解剖と運動学① 2 正常股関節の解剖と運動学② 3 正常股関節の病態・疫学・症候・機能障害 4 トレンデレンブルグ徴候 5 変形性股関節症の病態・画像 6 障害の捉え方 7 情報収集 医療面接の方法、情報収集する内容について 8 医療面接（模擬患者） 9 疼痛の評価・形態測定・可動域測定・筋力測定① 10 疼痛の評価・形態測定・可動域測定・筋力測定② 11 変形性股関節症の患者の状態 12 T H A の手術 13 T H A の機能障害 14 術後の検査項目の列举 15 T H A 術後の検査測定方法 16 T H A 術後の検査測定 17 T H A 術後の検査測定方法（模擬患者：他学年） 18 検査測定後の解釈 19 T H A 術後の機能障害について① 20 T H A 術後の機能障害について② 21 T H A 術後の能力障害について 22 能力障害と社会的不利の関連性① 23 能力障害と社会的不利の関連性②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	個人提出物、筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 5 年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	運動療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・運動療法の歴史と位置づけ、適応の理解 ・関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動、協調性トレーニングの適応と方法の理解 ・基本的運動療法の実践及び習得 ・運動療法機器の理解		
授業計画 Course Content	1 運動療法の歴史と位置付け、運動療法の範囲と適応 2 運動の種類 3 関節可動域運動の総論 4 関節可動域運動の実践（肩・肘） 5 関節可動域運動の実践（股） 6 関節可動域運動の実践（膝） 7 関節可動域運動の実践（足） 8 ストレッチ 9 筋力維持増強運動の総論 10 筋力について（筋収縮にかかわる神経生理、負荷量） 11 筋力維持増強運動の実践（下肢・体幹） 12 筋力維持増強運動の実践（上肢・インナーマッスル） 13 筋持久力について（エネルギー代謝） 14 13の続き 15 心肺持久力について（循環） 16 15の続き、呼気ガス分析 17 運動療法機器の紹介 18 協調性について（バランス能力） 19 協調性改善に関する運動療法 20 運動療法に関するリスク管理（血圧と心拍数） 21 運動療法に関するリスク管理（転倒予防、急変時の対応） 22 触診の技術向上 23 その他		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	中間試験、終講試験にて評定する。		
教科書 Textbooks	「運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版」 文光堂		
備 考 Other Comments	解剖学、生理学、基礎運動学の復習を交えながら理学療法治療理論を深める。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員24年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要 温熱・寒冷療法を学習する。温熱・寒冷療法がもたらす効果の機序について生理学的知見を交えて学習する。ホットパック・パラフィン・超音波・極超短波・アイスマッサージ・アイスパック・コールドパック・コールドスプレー・持続的冷却装置の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。 到達目標 温熱療法、寒冷療法に伴う生理的変化を説明できる。 物理療法の種類とそれぞれの適応と禁忌について説明できる。 物理療法の使用方法を理解し、実際に使用する		
授業計画 Course Content	1 物理療法の目的、理学療法の中での位置づけ、物理療法各機器の概説 2 物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛) 3 物理療法の対象と病理(筋トーン異常)、物理療法の対象と病理(運動制限) 4 温熱が全身、局所に与える影響① 5 温熱が全身、局所に与える影響② 6 ホットパック・パラフィン療法 7 ホットパック・パラフィンの演習 8 超音波療法① 9 超音波療法② 10 極超短波療法 11 極超短波療法・超音波療法の演習 12 寒冷療法 生理学的作用について 13 寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について 14 アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、持続的冷却装置の使用法、注意点などについて 15 アイスパック コールドパックの演習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	ホットパック・パラフィン、極超短波療法・超音波療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	物理療法学Ⅱでは水治療法、圧迫療法、電気療法、光線療法、牽引療法について学習する。物理療法学Ⅰと同様にこれらの治療がもたらす効果のメカニズムを生理学的知見交えて学習する。各療法の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。		
授業計画 Course Content	1 水治療法 静水圧 浮力が身体に及ぼす影響 2 水治療法 水の抵抗 水温と生理的反応、水中運動療法効果と禁忌 3 渦流浴 各温度と効果 禁忌、上肢用 下肢用 渦流浴の体験 4 圧迫（浮腫除去）療法 浮腫のメカニズム 疾患と浮腫 5 弾性包帯の巻き方 実技 6 オリエンテーションと電気療法の基礎 7 神経筋電気刺激/治療的電気刺激 8 経皮的電気刺激/機能的電気刺激 9 光線療法の特徴と皮膚整理機能 10 紫外線療法/赤外線療法 11 レーザー療法/持続的他動運動（CPM 療法） 12 牽引療法 13 牽引療法 実技、総復習 14 国家試験問題解説 15 総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	水治療法、圧迫療法、牽引療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員24年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・ ADL の概念と、その範囲と評価について学び「できる ADL」「している ADL」の違いを理解し ADL 評価を実践する事が出来る。 ・ 車いす、歩行補助具、トランスファー介助、一側下肢障害の ADL、福祉機器等についての理解と実践。 ・ ADL 指導の実践。		
授業計画 Course Content	1 ADL の概念とその範囲 2 ADL の概念とその範囲 3 ADL の評価の概要 4 ADL の評価の実践（FIM） 5 ADL の支援システム 6 福祉用具、福祉機器：リフター、トランスファーボード、ターンテーブル 7 車椅子、杖などの名称・使用方法 8 基本的な杖歩行と介助 ① 9 基本的な杖歩行と介助 ② 10 杖による階段昇降 11 一側下肢障害の ADL 指導と介助法 12 歩行器：歩行パターン、方向転換、小回り、介助方法 13 移乗の介助方法：1 人介助、2 人介助、全介助 14 車椅子移乗の動作方法と介助方法 15 一側下肢障害の ADL：THA 術後の ADL 指導		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験 15 点、筆記試験 85 点 計 100 点		
教科書 Textbooks	「ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第 3 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法学Ⅰ ※選択	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のにとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してするための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	観察実習（医療）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	4 0 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	病院や施設等の全体的な業務と機能を知る。 理学療法プロセスに触れ、理学療法士の業務内容を理解する。 リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任及び協調必要性を自覚する。 対象者の持つ障害像を分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知る。 医療を司る者としての自覚を深め、可能であれば、対象者との人間関係を築く。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 4 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 5 年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 2 年の経験を有する。		

科目名 Course title	観察実習（訪問・通所）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	4 0 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・リハビリテーション医療における訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションの意義を理解する。 ・利用者の生活リハビリテーション(Handicap、Disability との繋がり、Quality of life、個人因子、環境因子)について考える。 ・臨床におけるチームの連携を知ると同時にリハビリテーション職以外の役割や責任を知る。 ・臨床現場での学び方、問題解決能力の向上を目指す。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 4 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 5 年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 2 年の経験を有する。		

講義概要

2022 年度

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《基礎分野》 ＝科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解＝

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2 つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	1 物理量とその表し方 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 運動、仕事のエネルギー 6 温度と熱 7 波の運動 8 電流と抵抗		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト 3 0 % 期末試験 7 0 %		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」 羊土社		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「統計学」では、(1) 統計学の基本的な考え方を身につけることと、(2) パソコンを用いて様々な情報・データを活用・分析できるようになることを目的としています。 授業は、テキストによる講義とパソコンを用いた演習を組み合わせで行います。講義でデータの整理・分析の方法を学習した上で、Excel を利用した実習を行います。毎回の授業で習う基礎的な概念やデータ分析の目的・方法、分析結果の読み方を理解するように努めてください。		
授業計画 Course Content	1 データの整理 (1) : 度数分布表とヒストグラム 2 データの整理 (2) : 代表値 3 確率分布 (1) : 分布の形状 4 確率分布 (2) : 正規分布 5 推測統計学 (1) : 標本平均の分布 6 推測統計学 (2) : 正規分布による区間推定 7 推測統計学 (3) : t 分布による区間推定 8 単位認定試験		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」＝20 点、「単位認定試験」＝80 点で評価します（「単位認定試験」の合格の目安として、講義で配布するプリントの「練習問題」を十分に理解していることを求めます）		
教科書 Textbooks	「新・涙なしの統計学」 新世社		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	1 Word の基本操作（1）：基本的な文書作成 2 Word の基本操作（2）：文書の編集 3 Excel の基本操作（1）：データの入力・編集 4 Excel の基本操作（2）：表の作成 5 Excel の基本操作（3）：数式・関数の利用 6 Excel の基本操作（4）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 単位認定試験		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」40 点、「単位認定試験」60 点で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	授業ごとに課題プリントを配付。		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ラケット競技（バドミントン・ショートテニス・卓球） 3 バドミントン 4 卓球 5 バレーボール 6 バレーボール 7 ショートテニス 8 バスケットボール 9 バドミントン 10 バスケットボール 11 卓球 12 フットサル 13 ショートテニス 14 フットサル 15 バレーボール		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席重視		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	外国語 I（医学英語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article（原著論文）Case Report（症例報告）Review Article（総説）とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう（グループワーク） 13 論文を読んでみよう（グループワーク） 14 臨床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点 10% グループワーク 30% 定期試験 60%		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験 1 級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および 1 年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5. 日本語能力試験 N1 対策講座 読解③&聴解① 6. 日本語能力試験 N1 対策講座 読解④&聴解② 7. 日本語能力試験 N1 対策講座 模擬試験 8. 解剖学用語 総論 9. 解剖学用語 骨 10. 解剖学用語 関節 11. 解剖学用語 靱帯 12. 生理学用語 総論 13. 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14. 生理学用語 循環器系 15. 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	遠藤 陽	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	子ども、障害、からだ等の観点から、他者と関わることについて考え直し、医療従事者としての教育観を探究することを目指す。		
授業計画 Course Content	1 はじめに／教育について学ぶ意義 2 <子どもの誕生>子ども観と教育観の変遷 3 障害のある子どもの理解と特別支援教育 4 障害へのまなざしの変化 5 こころとからだ 6 からだと表現 7 発達障害の子の感覚遊び、運動遊び 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末試験 60%（8 回分の講義の中で深めたい内容を 1 つ選択し、文献、資料を参照の上、レポート記述。） 平常点 40%（出席、ミニレポート、授業への意欲・態度）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	医療・保険・福祉に携わるリハビリテーション従事者にとって、人とのコミュニケーションは必須である。そして、それはただ経験的に積み重ねていくだけでは不十分であり、様々な方法、技術を学び身に付けていかなければ、多様なニーズを持つ対象者の対応ができないとも言える。この講義では、コミュニケーションに必要な技術と知識を学び、身に付けるだけでなく、リハビリテーションの専門職としてコミュニケーションの重要性を学ぶことを目的とする。		
授業計画 Course Content	1. コースガイダンス(科目の目的・目標・評価方法) -人間関係の中の自己と他者 -人間関係とは -自己とは -他者とは 2. 対人関係と役割 -対人関係の成立 -対人関係の維持と崩壊 -対人葛藤と対処 -社会的役割 3. 他者に対する態度と行動 -態度と態度変化 -説得的コミュニケーション -攻撃 -援助 4. 大きな単位の人間関係:集団 -集団の特性 -集団での課題遂行・問題解決・意思決定 -リーダーシップ 5. 自分理解 -自分を理解すること -エゴグラム 6. 患者を支える人間関係 -死に向かう患者を支える人間関係 -事例ー末期がん 7. 家族を含めた人間関係 -保護を必要とする高齢者と家族 -事例認知症 8. 人間関係をつくる理論と技法① コミュニケーション -コミュニケーションとは -対人コミュニケーション -看護理論にみる患者ー看護師関係 9. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション -言語的コミュニケーション -非言語的コミュニケーション 10. 聴く:「積極的傾聴」と「共感」 -傾聴と共感 11. 話す:「質問する」と「伝える」 -聞かれた質問と閉ざされた質問 12. 人間関係をつくる理論と技法②:アサーティブコミュニケーション -アサーションの理論とスキル 13. 人間関係をつくる理論と技法③:コーチング -コーチングの理論とスキル 14. 保健医療における人間関係:患者・看護師間の相互作用の評価 -ロールプレイ -プロセスレコード -リフレクション 15. 品度なコミュニケーション:臨床実習で遭遇する事例をもとに -コミュニケーションの困難な状況 -コミュニケーションの強化が必要な状況		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験 60% 提出物 40%		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版」(医学書院)		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 心理学の歴史 2 知覚 1 3 知覚 2 4 記憶 1 5 記憶 2 6 知能 7 感情 8 学習 1 9 学習 2 10 適応 1 11 適応 2 12 性格 13 発達 14 思考 15 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	3 分の 2 以上の出席とレポートと筆記試験の成績		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第 3 版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三宅 眞理	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）：①公衆衛生学の必要性和重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動をじっせんできる力を養成する。		
授業計画 Course Content	第1回 公衆衛生の概念・健康と疫学的研究 第2回 健康の指標 第3回 感染症と食品衛生 第4回 生活環境の保全 第5回 医療・介護の保障制度 第6回 地域保健活動 母子保健と学校保健 第7回 生活習慣病と健康教育・難病 第8回 精神保健福祉と産業保健 まとめ		
成績評価等	筆記試験		
教科書 Textbooks	「わかりやすい公衆衛生」ヌーヴェルヒロカワ		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適なものにしていくことが、今強く求められている。特に高齢社会においては、年齢や障害の有無を問わず、誰でも豊かで健康的な生活を送るために必要不可欠なことである。 たとえば、椅子やベッドなどの家具を身体サイズに合わせたり、照明・空調・トイレなどの住宅設備を負担の少ない快適なものにしたり、パソコンや洗濯機などの家電製品を操作しやすい安全なものにすることなどがそれに当たる。人間工学はこうしたモノや空間を様々な人々が使えるように考えていく学問である。リハビリや要介護者のケア、生活環境の改善等に関わる理学療法士・作業療法士にも当然必要な素養である。 講義では、介護やリハビリを行う上で考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、それに合ったモノや環境づくり、そしてその使い方のガイドラインを紹介していく。		
授業計画 Course Content	毎回1つのテーマを取り上げていく。全体は2部構成となっており、第1部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第2部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。 〔第1部：人の心身機能とその特性〕 1 イントロダクション ー人間工学とは何か、どう役立つのか 2 人間工学に基づくイスの設計 ーバイオメカニクスの視点 3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ー人体寸法とデザイン 4 悪い姿勢が体を壊す ー運動機能と身体負担 5 感覚は五感だけではない ー感覚の種類と視覚機能 6 人はどのように見ているのか ー視覚の生理学 7 人は見たモノをどのように感じているのか ー視覚の心理学 8 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン 〔第2部：介護・リハビリのための応用人間工学〕 9 エイジングと高齢者の居住環境 ー高齢社会に対応したモノづくり 10 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ーユニバーサルデザインと人間工学 11 姿勢と動作、介護現場の事例 12 ボディメカニクス、福祉機器の設計 13 リハビリの安全と生理 14 演習：病院のユニバーサルデザイン 15 まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況と試験成績。試験は授業内容を問う基本的なもの。		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備 考 Other Comments	毎回プリントを配布し、必要に応じて副読本を紹介する。		

《専門基礎分野》 ＝人体の構造と機能と心身の発達＝

科目名 Course title	専門基礎概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法士養成校では、解剖学、生理学、運動学を基礎として作業療法士としての医学的知識、技術を向上させていく必要がある。それらの科目を十分に理解するためには、高校までに学習した化学、物理学、数学、生物学の知識は欠かせない。また、文章の理解、文章作成の骨を理解することも、医療従事者にとっては大切である。この科目は高校までで学んでおくべき知識の復習も兼ねて学習し、作業療法学の基盤になる知識の理解と定着、応用ができるようになることを目標とする。さらに、生理学で特に重要となる筋肉の収縮についても深く学習する。		
授業計画 Course Content	1. 生物① 細胞の構造、各機関の役割を知り、体内反応との関連性を知る。 2. 生物② 細胞分裂、発生を学び、人の体の成り立ちの基礎を知る。 3. 生物③ 3 大栄養素の糖、たんぱく、脂質の化学構造を学ぶ。DNA の構造を学び、遺伝のメカニズムを理解する。また遺伝の種類を理解する。 4. 生物④ 細胞膜の構造、膜にあるタンパク質の理解、活動電位、静止電位について理解する。神経における活動電位の伝播を理解する。 5. 生物⑤ 細胞内で行われている好気呼吸について理解する。 6. 数学① 単位の変換や表記、割合や比率など、基本的な数の扱いについて学ぶ。 7. 数学② 数学①を踏まえたうえで、物理や運動学に応用できるようになる。 8. 物理① ベクトルの計算の仕方や合成、分解の方法を学ぶ。 9. 物理② 速度、加速度、距離の関係や運動の法則を学び、力学の基礎を理解する。 10. 国語① 医療従事者に必要な文章作成の基礎を知り、事実の列挙の方法を学ぶ。 11. 国語② 事実から意見を述べる練習をし、根拠ある文章作成の基礎を学ぶ。 12. 筋肉の収縮① 骨格筋の構造、筋原線維、線維の型など 13. 筋肉の収縮② 骨格筋・心筋・平滑筋の比較、滑り説、分子機構など 14. 筋肉の収縮③ 興奮収縮連関、収縮の諸型、力学的性質など 15. 筋肉の収縮④ 収縮記録、エネルギー発生と代謝など		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物 小テスト 定期試験		
教科書 Textbooks	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800／南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	解剖学は医療を志す者にとって基本の学問であり、人体の構造を理解することは必須である。解剖学 I ではヒトの骨格と関節、靱帯について講義する。 骨学の総論では骨の基本的構造や発生、リモデリングなどについて、各論では頭蓋骨～足の骨までを順々に解説する。 関節、靱帯の総論ではそれぞれの基本的構造や分類などについて、各論では頭蓋骨～足の連結までを順々に解説する。		
授業計画 Course Content	1 骨学総論 1 2 骨学総論 2 3 頭蓋 1 4 頭蓋 2 5 脊柱 1 6 脊柱 2 7 胸郭 1 8 上肢 1 9 上肢 2 10 上肢 3 11 下肢 1 12 下肢 2 13 下肢 3 14 関節、靱帯の総論 1 15 関節、靱帯の総論 2 16 頭蓋の連結 17 脊柱の連結 18 胸郭の連結 19 上肢の連結 1 20 上肢の連結 2 21 上肢の連結 3 22 下肢の連結 1 23 下肢の連結 2		
成績評価	定期試験： 100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	必要に応じて骨格模型を使用		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法士として必要かつ重要な筋系および神経系の基本構造を学び、それらのはたらきや相互作用・相互関係を理解する。 筋系の一般的な構造を総論で解説し、次に主要な筋の起始、走行、停止、作用、支配神経について詳しく講義する。 神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造とはたらきを述べ、特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。		
授業計画 Course Content	1 筋系総論 2 筋系 体幹 1 頭部 3 筋系 体幹 2 頸部 4 筋系 体幹 3 胸部 5 筋系 体幹 4 腹部 6 筋系 体幹 5 背部 7 筋系 上肢 1 上肢帯・上腕 8 筋系 上肢 2 前腕 1 9 筋系 上肢 3 前腕 2 10 筋系 上肢 4 手 11 筋系 下肢 1 下肢帯 12 筋系 下肢 2 大腿 13 筋系 下肢 3 大腿・下腿 14 筋系 下肢 4 下腿 15 筋系 下肢 5 足 16 神経系 総論 17 神経系 中枢 1 18 神経系 中枢 2 19 神経系 中枢 3 20 神経系 末梢 1 21 神経系 末梢 2 22 神経系 末梢 3 23 神経系 末梢 4		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験： 100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	講義は教科書の流れに沿って、パワーポイント（スライド）を用いて行う。 パワーポイントの内容をプリント化し、授業資料として配布する。 国家試験の過去問を授業時に紹介することにより、必要な知識を自覚し学習意欲を高めることを目指す。骨格模型の閲覧時間を設けて運動器の構造と一の立体的な理解を深めることを目指す。		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。 以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上皮組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 15 腹膜、間膜		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第 6 版」南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂 20 版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅴでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系、生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 3 泌尿器系：腎小体、尿細管 4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤 10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン 12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 13 眼：眼球の構造 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。(100%)		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第 6 版」南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂 20 版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体機能発現の基礎となる細胞レベルでのメカニズムを学ぶ。細胞における生命諸反応をミクロ視点で探り、その後細胞群が組織、器官を形成し、コミュニケーションをとりながら複雑な機能発現を成すしくみを理解する。		
授業計画 Course Content	1 一般生理 (生理学) 2 一般生理 (生命現象・ホメオスタシス・フィードバック) 3 一般生理 (人体構成物質・細胞構造) 4 細胞機能 (細胞小器官) 5 細胞機能 (細胞膜の物質移動) 6 細胞機能 (調節メカニズム) 7 細胞機能 (シグナル伝達・受容体) 8 興奮発生と伝達 (興奮性細胞・神経系の基本・活動電位と局所電位・静止電位) 9 興奮発生と伝達 (細胞膜イオン透過性の変化) 10 興奮発生と伝達 (イオンチャネル・パッチクランプ) 11 興奮発生と伝達 (活動電位の伝導と特性・ λ と τ ・跳躍伝導) 12 興奮発生と伝達 (単・二・三相性活動電位・複合活動電位・軸索輸送) 13 シナプス伝達 (興奮性・抑制性・シナプス小胞) 14 シナプス伝達 (神経伝達物質・神経伝達物質受容体・神経回路網) 15 シナプス伝達 (ニューロン結合の基本型・可塑性・神経の変性・再生・成長)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「生理学テキスト第 8 版」文光堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。		
授業計画 Course Content	1 循環系の機能① 心臓の構造と心筋の働き 2 循環系の機能② 心電図 心臓ポンプ機能 3 循環系の機能③ 血管の構造と働き リンパ管系 4 循環系の機能④ 血圧とその調整 5 循環系の機能⑤ 局所の循環 6 呼吸の生理学① 呼吸器系の構造 換気の仕組み 7 呼吸の生理学② 肺機能 ガス交換とガス分圧 8 呼吸の生理学③ 呼吸の調整 呼吸の異常 9 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系 10 自律神経系と内臓機能② 自律機能の中枢 内臓反射 11 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化 12 消化と吸収② 小腸内の消化と吸収 13 大腸の働きと排便 肝臓の機能 14 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量 15 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100 点満点中 60 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。		
授業計画 Course Content	1 体液とその調整① 体液の区分と組成 酸塩基平衡の調整 2 血液の生理① 血液の組成 細胞組成 3 血液の生理② 血液凝固 血液型 免疫機構 4 体温とその調節① 体温の区分と生理的変動 熱産生 5 体温とその調節② 熱放散 発熱とうつ熱 6 尿の生成と排泄① 肝臓の機能的構造 糸球体濾過 7 尿の生成と排泄② 尿細管における再吸収と分泌 8 尿の生成と排泄③ 尿の成分 畜尿と排尿 9 内分泌系の機能① ホルモンの一般的性質と分泌調節 10 内分泌系の機能② 視床下部 下垂体ホルモン 11 内分泌系の機能③ 甲状腺のホルモンと骨代謝 膵臓のホルモン 12 内分泌系の機能④ 副腎のホルモン 13 内分泌系の機能⑤ 精巣、卵巣のホルモンと生殖 14 感覚系の構造と機能① 感覚の一般的性質 体性感覚 15 感覚系の構造と機能② 嗅覚と味覚		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100 点満点中 60 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体運動の仕組み（身体の機能・構造）、及び、身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ること、①障害の回復の手段を見いだす ② 残存機能を応用させた A D L（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。この講座では、主に上肢帯について学ぶ。 到達目標 人間の正常な機能構造を理解する 機能構造から起こる運動の特性について理解する		
授業計画 Course Content	1 運動学とは 2 上肢帯と肩関節の運動の概要 3 上肢帯の機能構造 4 鎖骨の運動 5 鎖骨と肩甲骨の連結について 6 肩甲骨の運動 7 肩関節の運動（肩関節の機能構造） 8 肩関節の運動（肩関節と上腕骨の関係性） 9 肩関節の運動（形状に伴う運動の特性） 10 肩甲骨の運動（運動方向） 11 肩甲骨の運動（肩甲上腕リズム） 12 肩関節周囲の筋肉（頸部から肩甲帯） 13 肩関節周囲の筋肉（肩甲骨周囲および胸郭） 14 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲） 15 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲および上肢）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カパンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体運動の仕組み（身体の機能・構造）および身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす ② 残存機能を応用させた A D L（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。 この講座では、上肢から手指、把持することについて、学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 上腕から前腕の構造について（概要） 2 肘関節の関節構造について 3 肘関節の関節構造について（関節包・靱帯） 4 肘関節の構造と運動（関節形状に伴う特性） 5 肘関節の運動 6 前腕の構造 7 前腕の運動 8 手根骨の機能解剖 9 手関節の機能構造 10 手関節の運動（形状に伴う特性） 11 手の役割、手の多機能性 12 手関節と手指の運動 13 手指の運動（関節構造と靱帯） 14 上腕の筋群 15 前腕および手内在筋群		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カパンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹) III	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。		
授業計画 Course Content	1 運動学とは何か 2 力学の基礎①（てこの原理、作用・反作用・力のつりあい） 3 力学の基礎②（ベクトル、滑車、仕事） 4 関節の分類、関節運動の表現法 5 股関節の運動学①（関節の特徴、靱帯） 6 股関節の運動学②（関節の動き、筋肉） 7 股関節の運動学③（屈曲、伸展） 8 股関節の運動学④（外転、pauwels の理論） 9 股関節の運動学⑤（内転、内・外旋） 10 膝関節の運動学①（関節の特徴、半月板） 11 膝関節の運動学②（側副靱帯、十字靱帯） 12 膝関節の運動学③（屈曲、伸展、膝蓋骨の役割） 13 膝関節の運動学④（Screw-home movement、筋肉、伸展機構） 14 膝関節の運動学⑤（半月板の形態と働き、膝関節の安定性） 15 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況、終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹)Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。		
授業計画 Course Content	1 足関節の運動学①（関節の特徴、足を構成する骨の特徴） 2 足関節の運動学②（距腿関節、距骨下関節） 3 足関節の運動学③（ショパール関節、リスフラン関節） 4 足関節の運動学④（中足間関節、中足指節関節、趾節間関節） 5 足関節の運動学⑤（足底弓蓋） 6 脊柱の運動学①（脊柱の特徴、motion segment、） 7 脊柱の運動学②（椎間関節、関節包内運動、頸椎の運動） 8 脊柱の運動学③（椎間円盤、胸椎の運動） 9 脊柱の運動学④（胸椎の運動、胸郭の運動） 10 脊柱の運動学⑤（腰椎の運動、仙腸関節） 11 歩行と走行①（歩行周期、走行との違い） 12 歩行と走行②（歩行周期と重心移動、関節角度の変化） 13 歩行と走行③（歩行時の筋滑動、異常歩行） 14 歩行と走行④（床反力、Floor-foot clearance、double knee action） 15 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席状況 ②レポート（開講後提示予定） ③終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅰ（運動）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	（運動発達） ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後 10 ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、認知・ 実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 新生児 3 頭部のコントロール 4 抗重力活動 5 立ち直り運動 6 座位・立位・歩行技能 7 視覚技能 8 上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小石 幸代	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	（発達心理） 子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目指します。		
授業計画 Course Content	1 発達とは—発達心理学の基礎 2 乳幼児期の発達 3 言葉の発達① 4 言葉の発達② 5 心の理論 6 児童期のころ 7 青年心理学 8 老年心理学—認知症の理解		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発達心理 テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	廣石 伸互	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content	1 病理学とは 2 細胞・組織の損傷 3 炎症 4 免疫 5 アレルギー 6 感染症 7 呼吸器障害 8 循環器障害 充血とうっ血 9 循環器障害 虚血と梗塞 10 代謝障害 11 先天性異常の分類 12 先天性異常 染色体異常と遺伝子異常 13 腫瘍とは何か 14 悪性腫瘍の広がりと影響 15 脳・神経系の疾患		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験（100％）		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」医学書院		
備 考 Other Comments	講義内容は理解度に応じて変更することがある。		

科目名 Course title	神経内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の総論について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	1. 主要神経症候 1 運動麻痺 2 運動失調 3 錐体外路症候 4 姿勢反射障害と姿勢異常 5 痙攣とミオクロームス 6 筋萎縮 7 歩行障害 8 感覚障害 9 疼痛 10 脳神経障害 11 構音障害、嚥下障害、球麻痺症候 12 意識障害 13 高次脳機能傷害 14 自律神経症候 2. 臨床検査 15 画像検査・電気生理学的検査		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	授業の終了時（学期末）にテストをする。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	辻井 啓之	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	1. 現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 2. 精神と脳の関係を考える。 3. 疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content	1 講師の自己紹介 この授業全体の概要 精神医学について 認知症症例 2 アルツハイマー型認知症 症例および解説 ニューロンとシナプス 心とは何か 3 脳血管性認知症 症例および解説 4 さまざまな認知症 クロイツフェルトヤコブ病、ハンチントン病など 5 統合失調症 破瓜型 症例および解説 統合失調症概説 6 統合失調症 緊張型 症例および解説 統合失調症の発病 精神科病棟について 7 統合失調症 妄想型 症例および解説 統合失調症の経過 慢性期 8 統合失調症の治療およびリハビリテーションを考える 9 気分障害 症例と解説 気分障害概説 10 気分障害 バーンアウト 症例と解説 気分障害経過 11 気分障害 躁病 症例と解説 気分障害治療 12 気分障害 生活上の注意点 ストレスへの対処を考える 13 薬物依存 症例アルコール依存症 1 薬物依存概説 14 薬物依存 症例アルコール依存症 2 アルコール依存症者の生活史 15 薬物依存 タバコおよびその他の薬物 依存とは アルコール依存症の治療		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験で評価します		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待 改訂 3 版」南山堂		
備 考 Other Comments	適宜プリントを配布します		
実務経験内容	医師として臨床経験 34 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content	(15 回で行う) 1 臨床心理学について 2 パーソナリティ 3 アセスメント 4 発達と心理的問題 5 心理的介入 6 臨床心理学の応用 7 国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など。		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本講座の到達目標は、作業療法について学んでいくにあたり、より広義であるリハビリテーションの概要を理解することである。 到達目標を達成するために、まず、リハビリテーションの定義・歴史について講義したうえで、生活・健康の概念についてみていき、疾病・障害・生活機能を分類する概念について解説していく。続いて、一般化されている患者・障害者の心理的な側面についてみるとともに、リハビリテーションが進められる流れ、リハビリテーションの形態について講義する。		
授業計画 Course Content	1 リハビリテーションの理念（前半） ▶①歴史・定義 ②ハビリテーション ③ノーマライゼーション ④自立生活 2 リハビリテーションの理念（後半） ▶⑤健康に関連する概念（QOL） ⑥生活・ライフスタイルと健康 3 疾病・生活機能の概念と分類（前半） ▶①病気の定義と国際疾病分類（ICD） ②国際障害分類（IDIDH） 4 疾病・生活機能の概念と分類（後半） ▶③国際生活機能分類（ICF） 5 患者・障害者の心理・社会的側面 ▶①患者・障害者心理 ②心理的適応の過程 ③心理教育（患者教育、家族教室） ④社会参加を支える法制度 6 リハビリテーションの進め方 ▶①リハビリテーション関連職種 ②チームアプローチ ③ケース会議（評価会議） ④リハビリテーションプログラム ⑤クリニカルパス 7 リハビリテーションの諸相 ▶①医学的リハビリテーション ②教育的リハビリテーション ③職業的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション ⑤地域リハビリテーション ⑥予防と健康管理 8 まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験		
教科書 Textbooks	田島文博 編著：リハビリテーション概論 改訂第4版. 永井書店. 2021 「ICF 国際生活機能分類」中央法規		
備 考 Other Comments	参考図書：中村隆一・佐直信彦：入門リハビリテーション概論 第7版増補. 医歯薬出版. 2013		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員1年の経験を有する。		

科目名 Course title	社会福祉学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content	- 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは - 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 - わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 - 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について - 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 - 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について - 高齢者の福祉 介護保険制度について - 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	多職種連携学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	本講座の到達目標は、作業療法士とともにリハビリテーションを担う職種との連携を理解することである。 到達目標達成に向け、連携に関する概念を学んだうえで、看護師・理学療法士・言語聴覚士と特に連携することが多い職種の概論を講義する。その後、作業療法士単独ではなく、職種間で連携することで得られる効果について検討していく。		
授業計画 Course Content	1 リハビリテーション関連職種と連携 2 チームアプローチ 3 【看護師（Ns）】看護とは 4 【看護師（Ns）】看護の提供者とその仕組み 5 【看護師（Ns）】看護過程について 6 【看護師（Ns）】チームアプローチを行ううえで療法士に期待すること 7 【理学療法士（PT）】理学療法の基礎概念 8 【理学療法士（PT）】理学療法の実際（1） 9 【理学療法士（PT）】理学療法の実際（2） 10 【理学療法士（PT）】チームアプローチを行ううえで OT に期待すること 11 【言語聴覚士（ST）】言葉とコミュニケーション 12 【言語聴覚士（ST）】言語障害の種類と接し方（1） 13 【言語聴覚士（ST）】言語障害の種類と接し方（2） 14 【言語聴覚士（ST）】摂食嚥下障害 15 チームアプローチを効果的に進めていくために		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 国守：筆記試験・レポート課題		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法の基礎となる「作業」や「活動」とはなにか、「作業療法とは」「作業療法士とは」ということをその言葉の意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 作業とは？作業療法とは？ 2 作業療法の理論・理念・関連法規 3 作業療法の歴史 4 作業療法の倫理 5 作業療法士に求められるもの 6 作業療法と ICIDH と ICF 7 EBM と作業療法 8 他職種連携：チームアプローチ 9 作業療法の現場・対象・病期 1 0 作業療法における思考過程 1 1 作業療法の過程：評価、統合と解釈、計画立案 1 2 領域別作業療法の実際 1 3 領域別作業療法の実際 1 4 作業療法にかかわる医療・福祉制度 1 5 作業療法部門の管理・運営		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論 第 3 版」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業分析学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤善 将	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点を持ち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content	1 作業療法についての振り返り 2 作業療法の理解に向けたグループワーク 3 活動分析（前開きシャツ・靴下など） 4 分析結果の発表・ディスカッション 5 巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク 6 分析結果の発表・ディスカッション 7 食べる行為についての作業分析（グループワーク） 8 分析結果の発表・ディスカッション		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員 6 年及び臨床 2 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村 博也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の治療媒体としての作業活動の中から代表的な革細工と陶芸を通して、材料と道具の使い方とその管理方法、作品制作の手順を理解する。 作品制作を通し作業分析的視点から、作業療法における作業活動の意味を考える。		
授業計画 Course Content	1. コースオリエンテーション 2. 陶 芸 荒練り、菊練りの実技 3. 手びねりでのぐい飲み 4. ひもづくりでの湯呑み 5. たたらづくりによる花瓶 6. ひもづくりでの灯籠 7. ひもづくりでの灯籠、素焼き 8. 施釉、本焼き 9. 革細工 小銭入れ 10. スタンピング 11. 染色 12. かがり、ホックつけ 13. コースター 14. カービング 15. 染色		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	作品提出、レポートの総合により成績を判定する。		
教科書 Textbooks	「基礎作業学実習ガイド」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	実習科目なので作品提出とレポートを重視する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 17 年及び教員 15 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【一般目標】 作業療法としての木工作業とレクリエーションを体験する。 木工：工程や必要な道具・材料について、包括的作業分析の手法を学ぶ。 レクリエーション：計画立案・発表を通して、作業療法として実践的にレクリエーションを行う手法を学ぶ。 【行動目標】 ① 製作する木工作品を自身で決定し、与えられた設定の中で作品を完成することができるようになる。 ② 木工作業の体験をする中で、作業療法に必要な要素を考えながら、作業分析の視点を養う。 ③ 体験した木工作業を、包括的作業分析をしてレポートにまとめることができる。 ④ 作業療法として行うレクリエーションの必要性を理解する。 ⑤ レクリエーションの計画立案・発表を通して、適切な計画、実施ができるようになる。 ⑥ レクリエーションを実施される側の視点で、他者の実施を評価できるようになる。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 レクリエーション：レクリエーションとは。（座学） 3 レクリエーション：レクリエーション体験 4～5 レクリエーション：レクリエーション計画 6～8 レクリエーション：レクリエーション発表 9 木工：木工とは（座学）作品設計図作成 10～15 木工：作品作成		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①木工（50％）：作品（25％）とレポート（包括的作業分析）（25％） ②レクリエーション（50％）：計画書と発表内容 ※木工の作品及びレポートが期限内に提出がない場合は不可とし、再試験として再提出を求める。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 4 年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	作業療法評価法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の治療、援助の計画を立案する為には、対象者の状況を正しく把握することが重要です。本稿では、正しい情報を得られるように評価の基本的な視点を学びます。また、評価は随時見直し、検討する必要があります。評価の流れについても習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content	1 評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題 2 ONE BEST SOLUTION はない！、クイズとパズル、問題認識 3 責任者は自分自身、評価の目的 4 評価の過程、評価のプロセス 5 各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定） 6 各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施） 7 各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則） 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験 ②出席状況		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員25年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法士として対象者を評価する上で、必要な評価技法を学ぶ。 主としてバイタル・身体計測・反射。 <到達目標> 1：バイタル・身体計測・反射において各々の項目の検査意義や定義、注意点など各々にかかわる項目を理解し述べることができる 2：バイタル・身体計測・反射において測定手技を身につけ、誘導・説明から検査開始、終了まで滞りなく適切に行うことができる		
授業計画 Course Content	1 作業療法評価技法総論：評価とは？評価技法とは？評価技法の位置づけなど 2 作業療法評価技法総論：評価結果の統合と解釈など捉え方 3 バイタルサインとは：古典的および現代的バイタルサインとは。それらを測定する技術と意味。血液検査等の略語と標準数値について 4 バイタルサインとは：測定実技 5 バイタルサイン測定の実技テスト（実技・口頭試問） 4 体表解剖：検査・測定を行う上で必要なランドマークを学び触察 5 形態測定とは：概論（測定機器の取り扱い、注意点等） 6 形態測定とは：測定実技 7 携帯測定実技テスト（実技・口頭試問） 8 反射とは：反射検査の意義・反射の種類 9 反射と姿勢筋緊張 10 反射の経路など生理学的基礎について 11 深部反射（伸張反射）：深部反射の持ちうる意味と測定技法 12 病的反射：病的反射の種類と意味、原始反射や上位中枢からの抑制について 13 病的反射：測定技法 14 表在反射：表在反射の種類と意味、測定技法 15 反射の実技テスト（実技・口頭試問）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、終講試験。この授業は医療現場での実践を想定しており、受講態度、実習に不適切な風貌は減点対象とする。授業では計測、血圧測定、反射テストの3つについて実技試験を行うので、授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂		
備 考 Other Comments	実技習得のため練習をしっかりと行うこと。わからない場合は積極的に教員に質問して解決の糸口を見つけられるようにすること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員13年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田愛	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習実習	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法評価技法Ⅰに続き、作業療法士として評価する上で、必要な評価技法（検査測定の方法）を学ぶ。主には、関節可動域（ROM）測定と感覚検査。 到達目標： ① ROM 測定および感覚検査の定義・種類・適応・測定方法・測定における留意点を述べるようになる ② ROM 測定および感覚検査実施にあたり、被検者を誘導し、検査のオリエンテーションを行い、適切な測定を実施できる		
授業計画 Course Content	1 講座のオリエンテーション、ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識 2 最終域感（生理的・病的）・姿勢の名称・ROM 測定のための道具 3 ROM 測定の手順・測定の注意事項・測定の正確性に影響する因子 4 ROM 測定実技練習 （肩関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、水平屈曲－伸展、） 5 ROM 測定実技練習 （肘関節：屈曲－伸展、手指：屈曲－伸展、外転－内転、前腕：回内・回外） 6 ROM 測定実技練習 （母指：掌側外転－橈側外転、手指：屈曲－伸展、外転－内転） 7 ROM 測定実技練習 （股関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、膝：屈曲－伸展） 8 ROM 測定実技練習 （足関節：底屈－背屈、外転－内転、内がえし－外がえし、肩甲骨：挙上－下制、屈曲－伸展） 9 ROM 実技練習 （体幹と頸部：屈曲－伸展、側屈、回旋） 10 ROM 実技テスト 11 感覚・知覚：定義、意義、表在感覚と深部感覚の違い、伝導路の違い 12 深部感覚の伝導路、防御知覚の伝導路、感覚テストの方法、オリエンテーションの仕方、痛覚・触覚のテストについて 13 感覚検査の実技練習 14 感覚検査の実技練習 15 感覚テスト		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、終講試験(100%)で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象。 ROM 測定、感覚テストの2つについて実技試験を行行で授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂		
備 考 Other Comments	実技はしっかり練習すること。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験6年及び専任教員2年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	身体障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	身体障害領域疾患別作業療法を理解するための基礎を学ぶ。 到達目標： ①身体障がい作業療法対象者の主な症状を理解し介入方法を理解する ②症状別の治療原理を中心に専門基礎科目、基礎科目とのつながりを理解する。		
授業計画 Course Content	1 身体障害領域作業療法の概要、作業遂行モデル 2 治療の連続性、治療方法（Bottom-up approach と Top-down approach） 3 〔作業遂行を行う運動のメカニズム〕物理学的な基礎知識と身体運動の基礎知識 4 〔筋緊張の異常とその治療〕関連用語、基礎知識、筋緊張異常を起こす疾患 5 筋緊張異常の発生機序 筋緊張の評価、痙性筋に対する治療手技と作業療法による介入 6 〔不随意運動とその治療〕定義・分類 振戦症状の検討 不随意運動と障害部位との関係 評価、作業療法 〔協調運動障害とその治療〕定義・評価のための基礎知識 7 〔協調運動障害とその治療〕失調症の主な臨床症状、失調症の発生機序と原因別分類 8 〔協調運動障害とその治療〕評価（運動検査・机上検査・機器による検査） 9 〔協調運動障害とその治療〕治療手技、治療の原則、視覚を利用した方法、固有感覚を利用した方法、巧緻性訓練 1 0 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕筋力・筋持久力低下の要因と原理、基礎知識 1 1 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕評価、治療手技、筋力・筋持久力訓練を実施する前に、筋力・筋持久力訓練の種類、特殊疾患の注意点、筋力訓練指導上の注意点 1 2 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕作業療法との関連 1 3 〔関節可動域の拡大〕用語、関節可動域制限の原因と機序 1 4 〔関節可動域の拡大〕評価・治療のための基礎知識、筋緊張と最終域感、関節包内運動、ROMex に使用される 4 つの運動、評価、治療手技、作業療法 1 5 〔知覚再教育〕用語、評価・治療のための基礎知識、知覚再教育プログラムの前段階、手の知覚再教育プログラム、中枢神経障害と末梢神経障害の違いを中心に		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100％）筆記試験については、小テストの形で分散させることあり。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第 3 版」医学書院 その他、必要に応じて指示する		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 1 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1. 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬介在療法とは何かを学ぶ。 2. 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3. 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4. 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5. 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6. 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のにとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7. 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8. 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	8 0 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本実習の主目標は、作業療法の対象領域を広く見聞することである。医療機関での作業療法士の活躍は周知されつつあるが、一方で近年、住民のニーズによって拡大されてきた地域での作業療法士の取り組みについてはまだまだ知られていない。そうした領域で活躍する作業療法士の様々な仕事を見て学ぶことで、自身の作業療法士としての将来像を構築する一助にしてみたい。 本目標を達成するために、地域の作業療法関連の施設を複数かつ数日間、見学することを想定している。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による) ※新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習で実施することがある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 5 年の経験を有する。 宮本教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 1 3 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 7 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 2 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 1 年の経験を有する。		

令和 3 年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：令和 3 年 4 月 1 日

至：令和 4 年 3 月 31 日

評価基準日 令和 4 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校

理学療法学科

作業療法学科

《 学校関係者評価 評価委員 》
(敬称略：五十音順)

委員長 米澤 泰司
委員 大原 敏敬
委員 川原 勲
委員 酒井 真紀
委員 谷川 優香
委員 前原 園代
委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：作業療法学科 学科長 理学療法学科 学科長 事務

教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

①リハビリ

2 看護

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	動物介在療法、スポーツリハに関連する科目などを設け、多様化する理学、作業療法士へのニーズに対応したカリキュラムを継続して実施している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後も教育内容の見直しを図り、学習の効率化、オンライン授業等を含め、効果的な教育手法を実施する必要がある。	○良好に反映されている。 ○臨床を見据えた教育カリキュラムが実施されている。また、スポーツや動物介在療法など興味深いカリキュラムもある。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、地域リハビリテーション、予防リハ、がんリハ、生活行為向上マネジメントなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 今後も職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行う必要がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	○良好に反映されている。 ○新人教育に長い時間が必要と言われているが、即戦力となる人材育成を行っている。 ○今後の社会のニーズを踏まえた構想を教育理念と併せて示すことでより良い教育環境構築につながると考える。 ○見直しの期間を決め、実施する必要があると思う。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新型コロナウイルス感染症の影響で一部の臨床実習と専門科目を翌年度実施することになった	専門性をより高めるため、専門科目にやや比重を置いた設定とした。学年ごとの積み重ねを考えた配置としている。 新カリキュラムで単位数が増加し若干過密なスケジュールとなっている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	配当学年に実施できていない科目に関しては、次年度内に実施できるように計画を立てて実行する。	○適切である。 ○一年目より専門性の高い講義もあり、フォローが必要である。 ○コロナの感染防止との両立を図りながら、良好な教育環境を学生に提供することを期待する。

4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	科目ごとの教授内容を明確化し、幅広い知識と技術が習得できるよう調整している。	科目間の内容のばらつきが減少した。科目間で重複した内容について調整している。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	シラバスに提示された内容により科目の内容がイメージでき、学習意欲が向上するように工夫する。	○良好に作成されている。 ○一部シラバスと異なる部分もあるが、概ね問題なく実施されている。 ○教育活動を高い水準に保つことができていると考える。 ○コロナ禍による授業制限を想定したシラバス作成が必要になってくる。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	教育ガイドライン、臨床実習ガイドライン、各科目担当講師などの情報や意見を集約し各学科で協議している。	オンラインで開催される教育学会や研修会に出向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	各種団体の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。	○良好な見直し体制がとれている。 ○ガイドラインにそって、適時見直しされている。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	昨今の学生の状況や国家試験の出題傾向等を考慮し、また出版社の意見なども参考にして原則、科目担当講師が厳選している。	出版社から献本を積極的に取り寄せ、学生の現状に合致したテキストを選定している。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	学生の現状を講師に伝え、担当講師に、より適切なテキストの提案をしていく。 学生の意見を踏まえ、購入後使用頻度の低い教科書については、改善を提案していく。	○現状に合致したものが採用されている。 ○国家試験に合格できるよう厳選している。また卒業後にも活用できる教材にしている。 ○学生のアンケート等を参考に教材選びなどできると良いと思う。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	原則科目評価は各講師が責任をもって行うが、学科内でも科目判定会議、進級判定会議を定期的に行い、厳正な評価するよう努めている。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	学修目標を取り入れた目標に合致しているか評価する新たに求められる能力要素があった場合には、成績評価ができるように追加する。	○良好に成績評価が行えている。 ○成績評価に不公平性がないよう留意している。また修業目標を明確にして評価を行っている。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では小テストや中間テストを実施するなどし、学生の理解度を確保しながら進めている。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っている。	○適切かつ良好に進められている。 ○アンケートや小テスト等を利用して理解に応じて個別に対応している。

9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	1年次よりグループ学習や学力アップ（専門基礎概論など）を取り入れて全体的な底上げを行う。入学前登校日にグループワークや特別講義を実施し、事前学習の重要性を伝えている。	面談やサークルワーク等で学生個々の課題を明確にして指導を行っている。また、空きコマを活用し各学年で学力の補填を実施している。ただしカリキュラム外の活動が過剰にならないようにバランスを取りながら進める必要がある。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	新設科目で学習した内容や特別な補填が、専門科目や臨床実習にどのような効果を与えているか経過を追う。その結果を基に内容を見直していく。	○良好に学力の補填が行われている。 ○カリキュラム外での特別講義や自己学習の援助など手厚く行っている。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	臨床でのマナー・身だしなみ等については普通の学校生活から適宜指導している。当校敷地内では全面禁煙とし受動喫煙防止に努めている。	入学時から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	本校の教育方針の意図を理解していただけるように努める。教職員も手本を示し、職業人としてのマナーやモラルの向上を目指していく。	○適切かつ良好な指導が行われている。 ○医療人としてのマナーやモラルを指導している。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備	学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかかる時間を確保する。 スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会や研修会に参加し、情報収集していく。また我々の教育効果を検証するためにも学会発表や研究活動を精力的に行い、教職員全体のスキルアップを行っていく。	○良好な研究、研修が実施されている。 ○教育技術が向上するよう研修会への参加を行っている。研究は関連施設などと協同して専門性の向上に努めている。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。	○適切に実施、反映されている。 ○授業アンケートを実施して教員の能力向上を行っている。外部講師にもフィードバックしている。 ○アンケートにて学生のニーズを講義方法に反映できるように実施する必要がある。

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。実習棟の空調設備更新が必要。	5 + 分 4 3 ふ つ う 2 → + 分 1 不 十 分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR教室でも試験を実施できる対策を検討する。	○良好である。 ○十分である。 ○とても良い環境が整っており、高校生や保護者に広くPRすることで入学者増加も期待できると考える。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	基準を満たした蔵書数を保有している。 メディカルオンラインを導入しており、文献検索が容易になった。	同じ建物内に図書室があるため、利便性が向上したことによって利用率が向上した。	5 + 分 5 4 ふ つ う 3 → + 分 2 不 十 分 1 不 十 分	引き続き配架を効果的にを行い、利用の促進を図っていく。	○非常に優れており、有効活用されている。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。検査機器、研究機器を新規購入し、学習環境が向上した。	新指定規則に必要な物品が納入され、学習環境が向上している。今後も年間購入計画を作成し補充・更新していく。	5 + 分 4 3 ふ つ う 2 → + 分 1 不 十 分	新規購入の必要な機材や更新が必要な機器の管理を徹底し、サービスが低下しないように努める。	○良好である。 ○検査測定機器、研究機材ともに十分にそろっている。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	各教室のプロジェクターやマイクについては利用できる環境である。	一部更新が必要な機器があるが概ね教育環境は充実している。 学内 Wi-Fi が充実し、利便性が向上した。	5 + 分 4 3 ふ つ う 2 → + 分 1 不 十 分	授業やイベント時にも対応した環境を今後も整備していく。	○優れており、有効活用できている。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	女子寮を保有している。 女子寮はキャンパス敷地内にある。	女子寮には住込みの管理者を配置している。 オートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。	5 + 分 4 3 ふ つ う 2 → + 分 1 不 十 分	試験や国家試験前など短期での利用をできるようにしていく。	○敷地内に女子寮があり、有効活用されている。 ○今後の向上についてとても良い考えである。

6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館、運動場ともに保有している。 授業やレクリエーション、また例年であれば式典で利用している。	和幸会グループのクラブ活動や、関連病院と連携し競技復帰前のスポーツ選手も活用している。芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 + 分 4 ← 3 ふ → 2 つ 1 不 + 分	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討している。	○非常に環境は優れている。 ○感染対策をルールのもと体育館の活用をすすめてほしい。
-------------------------------------	---	---	---	-------------------------------------	--

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティングや会議にて担任だけでなく、全教員で対応を検討している。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5 + 分 4 ← 3 ふ → 2 つ 1 不 + 分	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続する。	○非常に良好な対応が行われている。 ○これから学生個々の対応が増加することが予想されるため、それに対応できる体制にしていく必要があると思う。 ○担任制で、学生情報は全教員で共有している。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しかねる問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	5 + 分 4 ← 3 ふ → 2 つ 1 不 + 分	現状では十分な環境が整っていると思われる。	○非常に良好である。 ○関連施設の臨床心理士が適時対応している。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2部屋、また、各所に椅子やソファが設置されており、休憩時間や自習時に学生が有効利用している。	学生用スペースとしては広く、充実している。	5 + 分 4 ← 3 ふ → 2 つ 1 不 + 分	照明が暗い傾向にあり、点いていない時間があるなどの部分を改善できるよう、働きかけを続けていきたい。	○非常に充実している。

4. 事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。学内に売店はないが、弁当の注文販売を行っている。	弁当と自動販売機によって購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	食事場所のスペースは十分であるが、感染対策のアクリルパーテーションなどがあると良い。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストアもあり、利便性は向上している。	○食事場所は十分確保されている。食堂はないが、弁当、自販機があり、近隣施設も利用可能である。○お弁当の注文販売もあり、問題ない。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	日本学生支援機構の奨学金を中心に案内している。独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。	一般病院から、またその他奨学金の案内をいただいた際は、随時掲示にて学生に連絡を行っている。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となっている。	○良好に行われている。○学校独自の奨学金はないため、考えていく必要がある。
6. その他 国家試験について	今年度は新卒者の合格率が全国平均を上回った。既卒者については本校独自のフォローアップ制度を利用し1名合格することができた。	学内模試や小テスト等を充実した結果、新卒者の合格率は全国平均を上回ることができた。既卒者については本校独自のフォローアップ制度を利用し1名合格することができた。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	次年度より3年次カリキュラムに「基礎理学療法学」「作業療法総合学習」を取り入れ、国試対策には専任教員がさらに積極的にかかわりを持つ。	○良好である。○一定の合格率を維持しており、問題ない。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

◇特別学費支援制度を次年度より利用しやすくなるよう見直した。

◇すべての専任教員が厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会を修了した。

◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動

①新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、奈良県の脳卒中患者会2団体の会員の方々に学内演習も含めて複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら臨地と同等の環境で学習する機会を得ることを計画した。

◇ホースセラピーへの取り組み

①PONY KIDS（滋賀県栗東市）と連携し「動物介在療法Ⅱ」では座学のみでなく現場の実践が学べる環境を整備した。（授業は新型コロナウイルス感染の影響で延期中）

②今後も引き続き広報活動で他校との差別化と独自性を訴えていきたい。

◇スポーツリハへの取り組み

①新型コロナウイルス感染症により接触する機会が制限される中、企業クラブとの連携を強化した。

②パーソナルトレーニング論講義を本年度2年生に実施した。

※学校関係者コメント

○業界の求める変化をいち早く取り入れている点が素晴らしいと思う。立地上の問題はあるが、より広い地域から学生を迎える広報が必要だと思う。

○ホースセラピーやスポーツリハ等、独自の特徴的な授業を実施することで病院以外でのセラピストの働き方について学ぶことができ、学生がより将来像を抱け、勉強へのモチベーションを高めることにつながっていると思う。

○ホースセラピーの取り組みは期待しています。馬と高齢者、子供など対象者を介しての実習もできると良いと思う。コロナが落ち着いたら、学校を解放したイベントを実施することで、PT、OT、NSといった専門職を地域住民に知ってもらえたら良いと思う。また、医療やセラピーの知識を得るための講演会、研修会も開催すれば、地域住民も興味を持って参加してくださると思う。

令和 3 年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：令和 3 年 4 月 1 日

至：令和 4 年 3 月 31 日

評価基準日 令和 4 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

日本語科

《 学校関係者評価 評価委員 》
(敬称略：五十音順)

委員長 米澤 泰司
委員 大原 敏敬
委員 川原 勲
委員 酒井 真紀
委員 谷川 優香
委員 前原 園代
委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：日本語科主任 事務

教育分野

1 リハビリ

2 看護

③ 日本語科

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	将来の医療（主に介護）人材を育成するべく、昨年度から取り組んでいる「学生のニーズに応じたカリキュラムの見直し」をより充実させてきた。日本での生活や資格外活動に差支えないよう、コミュニケーション能力の涵養を主眼とした教育を心掛けている。	インプット活動とアウトプット活動の比重を調整することにより、コース目標通りの「コミュニケーション能力習得」を目指した授業が展開できた。 唯一の国籍の異なる学生の存在が学生間の日本語による意思疎通を活性化させ、全体的な日本語運用能力の伸長へと導いた。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	カリキュラムおよびシラバスは現状では問題はないと考えるが、今後、学生数が増加することに伴う新たな課題への対応が必要である。	○良好に反映されている。 ○医療介護施設での人材を育成するようにカリキュラム作成している。 ○複数の国の学生が集まることで共通言語が日本語になるのでインドネシア、ベトナム以外にも挑戦。 ○学生数の増加は必須で、適正規模の判断も重要。
2. カリキュラムに卒業後の職場のニーズをどのように反映していますか	学生の進路ニーズは、介護福祉士養成のための専門学校、特定技能（介護）による就職などに集中してきた。それらのニーズに応じた日本語能力の獲得を目指した日本語教育を行っている。	昨年度から日本で介護人材となることを目指す者に対しては、介護現場で役立つ「介護の日本語」の授業や、生活マナーや日本人の国民性、文化的特徴などを学ぶ「一般常識」の授業をカリキュラムに取り入れ、学生から高評価を得ている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生の進路ニーズを正確に把握し指導するとともに、日本社会で医療（介護）人材として働くことを希望する学生には、「異文化で働く」ということはどういうことかについて言語化して伝えていくことが必要であると考え	○職場ニーズに応じた能力に獲得できるように対応できている。 ○現場スタッフから高い評価をもらっている。 ○多種多様なニーズが求められる中、それに対応し、整備が見受けられる。 ○文化の違いをお互いに理解することが大切。介護への興味が沸くような取り組みが必要。 ○試行錯誤も多いが、日本の文化、伝統も大切。

3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラスの状況がある程度確保できている。(1クラス12名まで)	春学期入学2年制の学生については余裕を持ったカリキュラム編成が可能である。 今年度はコロナの影響で秋学期の入学者の来日がかなわなかったが、秋学期入学生は進路の決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成には課題が多い。学習時間と内容の確保には新たな取り組みが必要であると考えます。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 十 分	秋学期については、入学時点で相当の日本語運用能力を保持していなければその後の進路指導に支障があることが明確になってきた。学生募集時から学習修了時の計画を明確にし、実現可能な指導が行える体制が必要である。	○適切かつ良好である。 ○入学時期により配慮が必要と思われる。 ○グランドデザインの構築と提示が明確であるべきだと思う。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	学生のニーズに応じて、見直しをしながらコース毎のシラバスを作成している。当該シラバスは、各レベルを担当する教員により実際のカリキュラムに反映される。	学生のニーズの変化に応じて柔軟に検討や見直しをすることができている。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 十 分	各教員間でシラバスの内容についての理解を深め、具体的にどのような形で運用していくべきか常に話し合いをし、改善点については随時検討していく必要がある。	○適切かつ良好である。 ○日本語スキル向上と合わせて、社会、企業、進学先が求めるビジネスマナー教育も必要。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようになっていますか	日々蓄積され全専任教員に公開される授業報告や、アルバイト先である介護施設職員からの声等をもとに、学科運営会議等で随時進捗・教材・クラス編成等につき見直しを行っている。	教育実績等から考え、昨年度来行ってきたカリキュラムの見直しは教育目標の達成に大きく寄与している。 語学教育では入学前のレディネスによりクラス運営が大きく変化するため、広報等との密な情報共有が必要である。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 十 分	学生募集や提携海外教育施設との折衝等に教職員が積極的にかかわり、事前にオンラインなどで得られる情報を教室活動およびゴール設定に反映させていく必要がある。	○随時、良好な見直しが行われている。 ○教員間で情報共有が必要に応じて随時行われている。 ○入学前の活動も大切なので、連携がスムーズにいくように協力体制が必要。 ○経験を積むことで見えてくる手段や解決方法もあると思うので、根気強い継続が大切だと思う。

6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	医療（主に介護）人材を養成する機関への進学や特定技能による就職を目指す場合、日本語能力試験 N3～N4 レベル以上への到達が求められる。学生のレベルやニーズに応じてテキスト等を採用している。	学生個々人のレベルに応じ細分化された教材の提供ができた。JLPT 合格のための取り組みだけでなく、学んだ言語の運用に主眼を置いたアウトプット中心の授業でどのような教材を活用するかが今後の課題である。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	教育方法等も日々新しくなり、効果的に学習が進められる教材も日々新しいものが生まれる。常に教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。	○学生のニーズ、レベルに応じたテキストが採用されている。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	基本的言語能力（読解、文法、文字語彙、聴解）の知識に加え、介護業務場面等における「実際の日本語運用能力」についても「会話」や「介護の日本語」、「作文」等の試験を通して評価している。	インプット授業による言語知識に対する評価と、それらの言語知識をいかに運用できるかについての評価をバランスよく行おうとしている。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	現在は日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させており、評価作業が煩雑になっている。今後の学生数の増加を視野に入れた信頼性かつ合理性の高い評価法を検討していく必要がある。	○適切かつ良好な成績評価が行われている。 ○概ね問題ないが公平性を意識して行う必要がある。 ○アウトプットの有効性は認知され、これからは様々な教育現場で展開され進化すると思う。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	レベル別クラスによる JLPT 対策授業、アウトプットを主眼に置いた技能別授業等、学生の能力や授業の目的に応じた活動を展開してきた。	現在の授業運営は学生の能力に応じて細分化された設定がある程度可能となっている。今後学生数が増加することに伴い現状から後退する部分をどう補うかを検討する必要がある。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	学生数の増加に伴い、語学学習環境（クラスサイズ）のあり方を検討する必要がある。	○柔軟かつ良好に授業が進められている。 ○到達レベルによりクラス分けされており、問題ない。 ○細分化も必要ですが、生徒の学ぶ力にも期待し、信頼することも大切だと思う。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	学力不足が認められる学生については、課題を与えたりオンラインによる補講などで、クラスでの学習に追いつく補助としている。	きめ細やかな授業内外でのフォロー体制をいかに機能的に設定するかが今後の検討課題である。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	教員間での学生情報の共有、学習に困難を抱える学生に対する迅速な対応がその後の学習活動に影響を与えるという意識の共有が肝要である。	○良好に実施されている。 ○定期的に学生とコミュニケーションをとることで個別の取り込みが必要。 ○日本語能力試験に反映されているか。

10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、学生の出身国とは異なる習慣（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導をしたり、日本語の授業などを通じて日本人の行動規範や思考様式などを学ぶ授業を行っている。	入学時、また必要に応じて、マナー等についての理解を深める教育を行っている。 全ての事象につき短時間で伝えることは難しいため、思いも寄らない問題が生じる場合があるが、繰り返し指導を継続したことで今年度後半には問題発生の事例が激減した。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	生活習慣や文化の違いから生じる問題もあるなか、今後も個々の学生に対して対話と指導を行っていく。	○適切かつ良好な指導が行われている。 ○文化の違いに配慮して行われている。 ○マナー理解に個々の差がある。繰り返し、時間をかけて教育が必要。 ○日本では秩序と規範を重視するが、世界では自由を尊重している部分もあり、そのバランスをどうとっていくかが課題になると思う。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、学んだ内容について学科内で共有している。また定期的に外部の日本語教育機関との勉強会も実施している。	今年度はいくつかの学会において当校日本語科の取り組みや研究成果を発信し、予想以上の反応や学びを得ることができた。得られた学びを教員間で共有し、更に研鑽を積み新たな挑戦をしたい。	5 + 分	5 ←	4 ふ つ う	3 →	2 不 十 分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えられるよう研究発表等による情報発信を行っていきたい。	○非常に良好な研修、研究を実施している。 ○より専門的な内容となるよう研究会や学会への参加を継続していく。 ○学生の訴えを表に出しやすい工夫が必要。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	学期末にアンケートや面談等を行い、学習内容や授業、学校生活への評価を聞き取っている。	授業全体及び科目毎の授業評価を行うことにより、コース全体に対する評価だけでなく担当教員に対する評価ともなっている。 今学期は全体的に学生から非常に高い評価を得られた。	5 + 分	5 ←	4 ふ つ う	3 →	2 不 十 分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことがある。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。	○授業評価による良好な教育改善が行われている。 ○講義アンケート等で学生がより発信できるようにすることが望ましい。 ○アンケートは評価だけでなく、サンクスを表現できる仕組みを工夫してはいいか。

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. 教室の数や広さ、 附帯設備は適切です か	教室の数は十分であるが、 施設整備の点から、聴解や 保温等について課題があ る。	教室の数と広さは十分である。た だ教室前のロビー環境の更なる 整備が期待される。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	授業活動に必要な教具や 機材、授業研究に必要な 機材を充実させる必要が ある。また留学生がリラ ックスして過ごせるよう な環境整備が必要であ る。	○適切である。 ○十分である。文化的な 配慮があっても良いか もしれない。
2. 図書室を設け蔵書 を適切に揃えていま すか（有効に活用さ れていますか）	図書室および書棚を設置し、 多読教材をはじめとする書籍 が閲覧できるようにしてい る。	今年度若干の多読用教材の補充 を行ったが、まだ書籍の点数が少 ない。今後、多読に慣れるため、 学生が興味のある幅広い分野の 蔵書の充実が必要である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	教材費の充実、不要となっ た書籍の寄付を募る等の 方法により、第二言語とし て日本語を学ぶ学生が満 足できる内容の蔵書を充 実させていきたい。	○適切である。 ○デジタル機材を併用 して、ワークラボ的な運 用が課題だと思う。
3. 実習・実験室の数 や広さ、附帯設備は 適切ですか	実習等は行わない。				
4. 最新機能を備えた 視聴覚機器や情報機 器は足りていますか （有効に活用してい ますか）	プロジェクター等は利用し やすい環境にある。 学生の調べ学習のために Wi -Fi が設置されている。	効果的な授業活動を行うのに必 要な PC の整備が不十分である。 起動に長い時間がかかるなど 円滑な授業の流れに支障をきた す場合がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学習時間の短さを補うた め、LMS（Learning Management System）等の 利用による教室外学習と 反転授業の可能性につい て検討したい。	○適切である。 ○環境の整備、教材等の 充実に取り組んでいた きたい。 ○デジタル能力の開発 も重要な課題だと思う。
5. ニーズに応じた学 生寮を保有していま すか（有効に活用さ れていますか）	留学生全員に学生寮を安価 な価格で提供している。 女子寮は講義棟に併設して おり、男子寮も徒歩で 5 分 程度の場所にある。	施設用品等について不具合の生 じたものは、適宜、改善及び改修 を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後も、学生生活の一環 として学生寮での生活 を、学びの場として捉え ていきたい。	○男女別寮を完備して おり、極めて有効に活用 されている。

6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館は例年であれば式典等で利用している。 広い芝生広場も備えるなど、留学生の学生生活には最適な環境にはあるが、有効に活用しているとはいえない。	体育館や芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 + 分	4 ふ	3 つ	2 →	1 不 十 分	今後、充実した学生生活を目的とした更なる有効活用を全校上げて考えていく必要がある。	○適切である。
-------------------------------------	---	--	-------------	--------	--------	--------	------------------	---	---------

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価					今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. クラス担任制を取り修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	各レベルのカリキュラム作成担当教員が成績等の管理を行うとともに担任業務も行っている。また、各教員が相互に他のレベルの担任業務をサポートする体制が整えられている。	学生の学習面、生活面は主として担任が他の教員と連携して把握に努める。 主任は教員からの報告により状況を把握し対応する。	5 + 分	4 ふ	3 つ	2 →	1 不 十 分	現状は全教員が全学生の状況にある程度把握できているが、今後学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われる。	○適切かつ良好な対応を行っている。 ○担任と教員が連携して個別に対応している。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	母語を用いた面談を随時（入学時、進路指導時、その他必要に応じて）行い、状況の把握を行っている。また関連の医療施設にカウンセラーがおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	これまでのところ大きな問題は起きていないが、今後人数の増加に応じて、現在の運営が難しくなる部分があると考え。 語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはないため、事務員が通訳を務めている。	5 + 分	4 ふ	3 つ	2 →	1 不 十 分	寮やアルバイトなど、学生の生活全般に関するカウンセリングを含めた「生活指導」担当の人員を充実させる必要がある。	○適切に行っている。 ○OB によるサポートも視野に入れ、スタッフを拡充していく手段の検討も必要だ思う。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブル、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内は季節に合わせた飾り物や学生の成果物などを設置し、温かみのある空間になるよう工夫している。将来的には学生が快適に過ごせるように何らかの改修を含めた利用が望ましい。	5 + 分	4 ふ	3 つ	2 →	1 不 十 分	未利用部分を整備し、留学生が地域の方々などとも交流できるような空間づくりが望まれる。	○十分に確保されている。 ○日本の文化を伝える地域の人々との交流も望ましい。

4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	二部制であるため、午前授業の学生が教室前ロビーや祈禱室で昼食を取っている。売店はないが、弁当の注文販売があり、自動販売機も十分設置されている。ロビー内に電子レンジや電気ケトルなども設置した。	午後授業の学生がロビースペースで昼食を取る場合があるが、全員が校内で食事をとることはあまり多くない。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	食事場所については十分である。 売店については近所にスーパーやコンビニがある。	○食事スペースは十分に確保されている。食堂はないが弁当、自動販売機による販売、近隣施設も利用できる。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の支援制度として、診療費補助制度及びJLPTN1・N2 合格者に対する学習奨励金制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 + 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	成績優秀者等への奨学金が更に充実していけば、学習動機の向上につながると思う。	○適切に行われている。 ○寮費が安価であったり、学習奨学金がある。
6. その他	特になし								

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み

- ・日本、日本文化等への理解を深める機会を与える工夫として、お正月文化体験（書き初め、茶道体験）をするなど、各種イベントを年間行事に盛り込んでいる。
- ・教員は学生のアルバイト先である介護施設との連携に力を注いでいる。介護施設の職員を対象に異文化理解講座を実施したり、日本語科の活動や学生の成果物を紹介する「日本語通信」という発行物を全職員に配布したりすることにより、日本人側の「外国人と働くこと」「多様性を受け入れる」という意識づけを図り、留学生と日本人職員をつなげる取り組みを行っている。
また、介護施設の職員による出張授業を実施し、介護業務やキャリア形成、日本人職員との仕事上でのコミュニケーション等について多角的に考える機会を提供している。
- ・近隣地域との連携の一環として、朝のあいさつ運動や清掃活動に参加している。
- ・コロナ禍で外とのつながりが確保しにくい中、日本の大学生とインスタグラムによる交流を行ったり、国際留学生協会発行の新聞に投稿するなどの学外活動にも積極的に参加し、自らも外の世界へ発信できるような環境を整え、教員はそのための手厚いサポートを行っている。

※学校関係者コメント

○留学生が地域のイベントに参加することで、日本語能力向上につながるのではないかと。行事などの活用を充実させてはどうか。

○卒業生へのその後の支援、状況把握などは行っているか。

○より深い日本文化の教育や日本での仕事現場との交流など多角的に日本について考える機会が多く、学生にとって学びやすい環境であると思う。今後、学生が増員することが考えられるので、それに対するカリキュラムの修正や環境設定、学生に対してのサービス面等の対策を具体的に考えていく必要があると思う。

○コロナ対策をしながら、日本文化を体験する取り組みを増やしていけると良い。正月の体験だけでなく、書道、茶道、着付け、陶芸、生け花なども地域住民が協力してくださると思う。地域のイベントが再開されるようになるとより一層日本での生活が楽しくなるだろう。日本は高齢化率が世界1位、ベトナムは89位、インドネシアは105位となっている。2035年には団塊世代が85歳を超え、介護関連の従事者数が足りず、外国の人材が必要とされる。日本の高齢者の支え手として活躍し、介護の専門性を学び、将来自国へ帰国した際には、母国で貢献できる人材になれるようにがんばってもらいたい。

○経済的支援だけでなく、人的支援も必要だと思う。様々な取り組みでも同世代を中心とした日本人との交流が最重要だと思う。また、交流やイベントも少し気軽な内容の企画も織り交ぜることによって距離感が縮まると思う。多種多様な取り組みにおいて、内容が一段と進化し、発展されることに期待している。